

親同士の友人グループへの参加実態

Survey on Participation in a Friends Group of Parents

塚常 健太 TSUKATSUNE, Kenta 大戸 朋子 OTO, Tomoko
橋元 良明 HASHIMOTO, Yoshiaki

目次

- 0 調査の概要
 - 0.1 調査の目的
 - 0.2 調査の方法
- 1 属性
 - 1.1 婚姻形態
 - 1.2 DID 人口比
 - 1.3 世帯収入
 - 1.4 個人収入
 - 1.5 最終学歴
- 2 就業状況
 - 2.1 本人就業形態
 - 2.2 配偶者就業形態
 - 2.3 通算就業年数
 - 2.4 就業時間
 - 2.5 通勤時間
 - 2.6 育休・時短などの制度利用経験
- 3 同居状況
 - 3.1 同居人数
 - 3.2 親世代同居
 - 3.3 子供同居
- 4 地元
 - 4.1 地元 4 分類
 - 4.2 地元 2 分類
- 5 子供関係イベントへの参加
 - 5.1 イベント参加頻度の比較
 - 5.2 父母会・保護者会
 - 5.3 PTA などの組織活動
 - 5.4 給食試食
 - 5.5 授業参観

- 5.6 運動会・文化祭
- 5.7 親子行事
- 5.8 入学式・卒業式
- 6 仕事と家事育児の関係
 - 6.1 家事育児分担納得感
 - 6.2 仕事と家事育児のバランス
 - 6.3 両立実感
- 7 サポート源
 - 7.1 経済的サポート源数
 - 7.2 家事サポート源数
 - 7.3 育児サポート源数
 - 7.4 精神的サポート源数
- 8 友人グループ参加者の当初の参加意向・期待感
 - 8.1 当初の参加意向
 - 8.2 当初の期待
 - 8.3 参加者の今後の参加意向
- 9 友人グループ不参加者の今後の参加意向・参加予定
 - 9.1 不参加者の今後の参加意向
 - 9.2 今後の参加予定
- 10 コミュニケーションの実態
 - 10.1 グループで直接会う頻度
 - 10.2 グループで連絡をとっている頻度
 - 10.3 利用している通信手段
 - 10.4 友人グループで最も利用する通信手段
- 11 参加・不参加理由の自由記述の分類
- 12 今後の参加意向と参加・不参加理由およびその他要因の関係
- 13 参考文献

塚常 健太 KDDI総合研究所

大戸 朋子 KDDI総合研究所

橋元 良明 東京大学大学院情報学環

本報告は株式会社KDDI総合研究所と東京大学情報学環橋元研究室の共同研究の成果の一貫である。

0 調査の概要

0.1 調査の目的

日本における友人関係研究は、これまで幼児期や青年期を中心に研究の蓄積がなされてきた。しかし藤井(2016)が指摘するように、続く成人期はアイデンティティの再構築が行われる時期に当たり、成人期の友人関係についてもさらに研究の蓄積を行っていく必要がある。成人期は特に女性にとって出産・育児、またそれに関わる仕事の継続・中断・開始といった様々な事柄に対する悩みや不安を抱えやすい時期となっているため、これらのサポートに関しては同性の友人が大きな役割を果たすものと考えられる。育児を契機とした友人関係としては「ママ友」「パパ友」という親同士の関係が想定できるだろう。しかしながら、そのような友人関係(サポート・ネットワーク)は、子を持つ親全員が持ちうるものではない。また、関係を持っていても何らかの要因によってその関係から離脱する可能性もある。さらに、ママ友・パパ友の在りようも一枚岩ではなく、様々なバリエーションが考えられる。

そこで本研究では、子供を持つことによって形成されるパパ友・ママ友という友人関係に着目した。その上で、どのような属性を持った人々が友人関係を形成するのか／しないのか、また、このような友人関係を維持する／新たに獲得しようとする意向、あるいは関係からの離脱はどのような要因によって生じるのか明らかにすることを目的として、子を持つ親に対して調査を実施した。

なお、今回の調査データからは友人関係の多側面にわたる知見の獲得が期待されるが、本稿では紙幅の制約上、多変量解析などによる詳細な分析は最小限にとどめる。まず前段階として、友人関係に関係すると予想された主要な要因について基礎集計を中心に全体的傾向を確認する。その上で、研究課題の一つである、友人関係の維持・獲得への意向に影響する要因についての分析を行う。

0.2 調査の方法

(1) 調査対象：子供を持つ母親および父親。

年齢：21歳～69歳

「20～30代」「40代」「50代」「60代」の各人数が同数となるよう均等割り付け(ただし、20～30代の友人グループ参加の男性など、数名が不足する箇所が一部存在したため、後述する同モニターグループ内での最も近い年代層から補填した)

居住地域：日本全国

条件：

本調査では以下のSQ1~5のスクリーニング設問を基に、男女それぞれで4種類のカテゴリに振り分けた。なお、本人含め3人以上のグループに所属するケースを本調査における友人グループへの参加者と定義し、友人がいても2人だけ(一対一)の間柄の場合は不参加者

と見なしている。

SQ1「あなたには、お子様がいらっしゃるでしょうか。現在同居していないお子様も含めて、お答えください。」

(選択肢：「子どもがいる(同居・別居問わず)」「子どもはいない」)

SQ2「あなたは、お子様についての情報交換や相談ができる友人・知人がいますか。」

(選択肢：「現在いる」「過去にはいたが、現在はいない」「今までにいたことはない」)

SQ3「現在、あなたはパパ友・ママ友のグループに所属していますか。また、所属している方は何人のグループに所属していますか。あてはまるものをすべてお選びください。

※人数については、ご自身を含めた人数としてお答えください。」

(選択肢：「2人」「3人」「4人」「5人以上」「所属していない」)

SQ4「今までに、あなたはパパ友・ママ友のグループに所属していましたか。

また、所属していた方は何人のグループに所属していましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

※人数については、ご自身を含めた人数としてお答えください。」

(選択肢：「2人」「3人」「4人」「5人以上」「所属していなかった」)

SQ5「前問にて『3人以上のパパ友・ママ友のグループに所属している』と回答した方にお伺いします。あなたが所属している【3人以上】のパパ友・ママ友のグループと知り合ったきっかけとして、あてはまるものをお選びください。

※複数の【3人以上】のパパ友・ママ友のグループに所属している方は、最も頻繁に交流を行うグループについてお選びください。」

(選択肢：「子どもがきっかけで初めて出会った間柄」「自分の小学校・中学校時代以前からの友人」「自分の学生時代(中学校卒業以降)からの友人」「仕事上の人間関係(上司・同僚・部下等)」「その他」)

以上のスクリーニング条件を基に、子供を持たない回答者を除外した上で、子持ちの対象者について以下の4種類のモニターグループを設定した。

(A) 子供きっかけで関係が作られた「子供きっかけ」

(B) 既存の友人関係にさらに親という属性が付加された「子供無関係」

(C) 過去には友人関係を持っていたが現在はそのネットワークから脱退した「離脱」

(D) 一度も繋がりを持ったことがない「未経験」

この4カテゴリーの該当者を可能な限り均等となるよう配分し、計1661名(男性830名、女性831名)から回答を得た。

(2) 調査の方法：オンラインアンケート調査。標本母集団は株式会社マクロミルの登録モニター

- (3) 設問数 : 34 問(一部の対象者にのみ問うた設問も含む。また、基本属性に関する設問は除く)
- (4) 有効回答数 : 子供きっかけ 429 票、子供無関係 359 票、離脱 372 票、未経験 453 票、計 1,613 票(男性 802 票、女性 811 票)
- (5) 調査期間 : 2017 年 9 月 27～29 日

1 属性

本章ではまず回答者の属性について概観する。属性として、婚姻形態、DID 人口比、世帯収入、個人収入、最終学歴を選んだ。なお、友人関係 4 分類の変数について、男女それぞれ計算した。連続変数については平均値(山吹色のグラフ)、離散変数については相対度数(緑色のグラフ)で集計結果を示すとともに、男女内の 4 群の間で平均値の高さや相対度数の分布を比較し、有意差が見られた箇所については個別に説明を加える。

1.1 婚姻形態

有効サンプル 1,613 名の婚姻状態の内訳を表 1 に示す。男女ともに 9 割程度が既婚者となっている。女性では友人関係 4 分類の間で有意差はないが、男性では、友人グループ参加者で既婚者の割合が有意に高く(「子供きっかけ」97.1%、「子供無関係」97.3%)、離脱者で離別・死別の割合が高かった(離別 9.1%、死別 2.4%)。

表 1 婚姻形態

	未婚	既婚	離別	死別
男性(N=802) 参加・子供きっかけ(N=204)	0.0%	97.1%	2.5%	0.5%
参加・子供無関係(N=188)	0.5%	97.3%	2.1%	0.0%
過去にいた・離脱(N=164)	0.6%	87.8%	9.1%	2.4%
未経験(N=246)	1.2%	93.1%	4.9%	0.8%
χ^2 値(df=9)	22.65	**		
9				
	未婚	既婚	離別	死別
女性(N=811) 参加・子供きっかけ(N=225)	0.0%	91.1%	6.7%	2.2%
参加・子供無関係(N=171)	0.0%	91.8%	6.4%	1.8%
過去にいた・離脱(N=208)	0.5%	86.5%	10.6%	2.4%
未経験(N=207)	0.5%	85.0%	11.1%	3.4%
χ^2 値(df=9)	8.05			

χ^2 値は男女別に行った参加4分類と婚姻形態との分析結果。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10
残差分析の結果、太字は5%水準(両側検定)で有意に高い、斜字は有意に低いことを示す

なお、これ以降の結果については、既婚者のみにサンプルを限定し、その回答傾向を男女別に確認する。また、用語について質問項目の文言では「所属(非所属)」「参加(不参加)」の両方が存在しているが、本稿では「参加(不参加)」で統一する。

1.2 DID 人口比

DID (Densely Inhabited District; 人口集中地区)を利用した都市度の指標として、現在の居住自治体の DID 人口比(平成 27 年度国勢調査を基に計算)の平均値を求めた。DID 人口比は各市区町村の面積のうち、何%が DID に該当するかという割合を求めたものであり、100(%)に近いほど都市度が高い。計算結果を表 2 に示す。

結果として、男女ともに有意差があるが傾向は異なっており、男性では「子供無関係」の DID 人

口比が「離脱」「未経験」よりも有意に低かった(69.51%)。女性では「未経験」の DID 人口比が「子供きっかけ」よりも有意に低かった(73.37%)。これは、都市度によって友人関係を持つ機会に多寡が生じており、さらに元々の機会の男女差(どのような頻度で、どこで会うかなど)が有意性の違いにも表れていると考えられる。

表 2 DID 人口比

	Mean	SD	有意差
男性(N=754) 参加・子供きっかけ(N=198)	73.84	30.72	a, b
参加・子供無関係(N=183)	69.51	31.19	a
過去にいた・離脱(N=144)	81.40	23.77	b
未経験(N=229)	77.40	26.53	b
F値 (df=3, 750)		5.35	**

	Mean	SD	有意差
女性(N=718) 参加・子供きっかけ(N=205)	81.27	24.12	a
参加・子供無関係(N=157)	75.17	28.81	a, b
過去にいた・離脱(N=180)	80.59	24.40	a, b
未経験(N=176)	73.37	29.25	b
F値 (df=3, 714)		3.97	**

4群間の有意差の判定はTukey検定による。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10
アルファベット符号は、同符号のカテゴリ間で5%水準の有意差がないことを示す。

1.3 世帯収入

次に、世帯収入を連続変数化し、友人関係4分類ごとの傾向を比較する。世帯収入の選択肢は「200 万未満」「200～400 万未満」「400～600 万未満」「600～800 万未満」「800～1000 万未満」「1000～1200 万未満」「1200～1500 万未満」「1500～2000 万未満」「2000 万円以上」「わからない」となっており、各階級の中央値を代入して計算した(「2000 万以上」の階級については2400 万を代入)。なお「わからない」という選択肢を置いたほか、無回答も許容しているため、男女ともに数割の欠損値が出ていることに注意が必要である。

計算結果を表 3 に示す。男性では「未経験」の世帯収入が他の 3 群と比べて有意に低かった(6427860.70 円)。女性では「子供きっかけ」と比べて、「離脱」(6085106.38 円)、「未経験」(5871212.12 円)が有意に低かった。この傾向が、高所得者という地位を獲得することにより家族外の対人関係に自信を持って臨めるといった社会的威信に起因する結果なのか、それとも実利的な生活上の余裕に起因する結果なのかは、数値のみからは判断できない。しかしいずれにしても、収入の低さが既婚者の友人グループへの参加／不参加に影響している可能性がある。

1.4 個人収入

世帯収入と同様の選択肢を基に、階級の中央値を代入する形で個人収入を計算した。結果を表 4 に示す。就業形態(後述)について、女性では専業主婦、パート・アルバイトの割合が高いため、男性よりも個人収入が低い値となっている。しかし女性内部では友人関係 4 分類の間で有意差が

見られなかった。一方、男性では世帯収入と同様、「未経験」の収入が有意に低いという結果になった(5141089.11 円)。

表 3 世帯収入

	Mean	SD	有意差
男性(N=672) 参加・子供きっかけ(N=179)	8103351.96	3908962.61	a
参加・子供無関係(N=169)	7908284.02	3895455.54	a
過去にいた・離脱(N=123)	8260162.60	4341162.87	a
未経験(N=201)	6427860.70	3627122.81	b
F値 (df=3, 668)		8.54	***

	Mean	SD	有意差
女性(N=538) 参加・子供きっかけ(N=140)	7317857.14	3921537.43	a,
参加・子供無関係(N=125)	6444000.00	3850647.20	a, b
過去にいた・離脱(N=141)	6085106.38	3448062.32	b
未経験(N=132)	5871212.12	4418309.07	b
F値 (df=3, 534)		3.66	*

4群間の有意差の判定はTukey検定による。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10
アルファベット符号は、同符号のカテゴリ間で5%水準の有意差がないことを示す。

表 4 個人収入

	Mean	SD	有意差
男性(N=674) 参加・子供きっかけ(N=179)	6519553.07	3159773.11	a
参加・子供無関係(N=170)	6573529.41	3418389.95	a
過去にいた・離脱(N=123)	6272357.72	3139027.23	a
未経験(N=202)	5141089.11	2929714.77	b
F値 (df=3, 670)		8.65	***

	Mean	SD	有意差
女性(N=567) 参加・子供きっかけ(N=153)	1483660.13	1338226.32	a
参加・子供無関係(N=124)	1483870.97	1122452.82	a
過去にいた・離脱(N=150)	1240000.00	924535.07	a
未経験(N=140)	1403571.43	1452975.65	a
F値 (df=3, 563)		1.28	

4群間の有意差の判定はTukey検定による。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10
アルファベット符号は、同符号のカテゴリ間で5%水準の有意差がないことを示す。

1.5 最終学歴

最終学歴を三つに分類して分布を比較する。分類の結果を表 5 に示す。元の設問の文言は以下である。

「あなたの最終学歴として、あてはまるものをお選びください。

※在学中の方は、卒業・修了したと仮定した場合の学歴をお答えください。

※途中退学されている場合には、途中退学した学校を選択してください。」

選択肢：「中学校」「高等学校」「専門学校」「高等専修学校」「高等専門学校」「短期大学」「大学」「大学院・6年制大学」「その他」

比較の結果、男女ともに、「未経験」において有意に「中学・高校」の割合が高かった（男性 30.1%、女性 44.3%）。これについては世帯収入の場合と同様、子供に関する情報収集能力を担保する社会的資源、あるいは対人関係に自信を持って臨める社会的威信としての学歴の効果が表れている可能性が考えられる。それ以外の解釈としては、より上位の学歴を持つ場合には、下位の学歴を持つ者よりも多くの同窓の友人を獲得する機会が増えるため、子の出生以前からの親のつながりが維持されるという可能性がある。しかし、この機会数に関する解釈が成り立つには「子供きっかけ」ではなく、親自身の学歴と関係する「子供無関係」のみで有意に高学歴者の割合が高くなることが予想されるが、今回の結果はそのようになっておらず、女性ではむしろ「子供きっかけ」で「短大・専門・高専」「大学・大学院」の割合が有意に高い。つまり学歴の効果は、機会の多さよりも社会的資源または社会的威信の文脈でとらえる方が整合的であろう。

表 5 最終学歴

	参加・子供きっかけ	参加・子供無関係	過去にいた・離脱	未経験	χ ² 値(df=6)
男性(N=754)	18.7%	18.6%	14.6%	30.1%	17.45 **
女性(N=718)	18.5%	24.8%	34.4%	44.3%	33.83 ***

	中学・高校	短大・専門・高専	大学・大学院
男性(N=754)	68.7%	12.6%	16.4%
女性(N=718)	37.1%	44.4%	31.5%

χ²値は男女別に行った参加4分類とのクロス表の分析結果。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10
 残差分析の結果、**太字**は5%水準(両側検定)で有意に高い、*斜字*は有意に低いことを示す

2 就業状況

本章では、回答者の就業状況について概観する。確認する項目は本人就業形態、配偶者就業形態、通算就業年数、就業時間、通勤時間、育休・時短などの制度利用経験である。

2.1 本人就業形態

本人および配偶者について、就業形態を問うた。設問の文言は以下である。

「以下の項目についての現在の勤務状況について、最もあてはまるものをお選びください。」

※兼業されている場合は、メインとしている職業をお答えください。」

選択肢：「フルタイム」「パート・アルバイト」「派遣労働」「自由業(フリーランス)」「自営業」「専業主婦・専業主夫(賃金を得る仕事には就いていない)」「無職」「その他」

本人就業形態を比較した結果を表6に示す。男性ではフルタイム労働者の割合が高く、女性では前述のようにパート・アルバイトおよび専業主婦の割合が高い。さらに男性内部で比較すると、「子供きっかけ」で有意にフルタイムの割合が高く(90.4%)、女性内部は「子供無関係」で専業主婦の割合が低い(48.4%)など、就業形態も男女ともに友人関係の有無に影響をもたらしている可能性が指摘できよう。

表6 本人就業形態

		フルタイム	パート	派遣労働	自由業	自営業	専業主夫	無職	その他
男性(N=754)	参加・子供きっかけ(N=198)	90.4%	1.0%	0.5%	0.0%	6.1%	0.5%	1.5%	0.0%
	参加・子供無関係(N=183)	86.9%	1.6%	0.0%	1.1%	5.5%	0.0%	3.3%	1.6%
	過去にいた・離脱(N=144)	79.9%	4.2%	1.4%	1.4%	4.9%	0.7%	6.9%	0.7%
	未経験(N=229)	72.9%	3.1%	0.9%	1.3%	8.3%	1.7%	10.5%	1.3%
χ^2 値(df=21)		41.32 **							
		フルタイム	パート	派遣労働	自由業	自営業	専業主婦	無職	その他
女性(N=718)	参加・子供きっかけ(N=205)	15.6%	24.9%	1.0%	1.0%	1.5%	54.1%	1.0%	1.0%
	参加・子供無関係(N=157)	17.8%	28.7%	1.3%	0.6%	1.9%	48.4%	1.3%	0.0%
	過去にいた・離脱(N=180)	9.4%	27.2%	0.0%	0.0%	1.7%	60.6%	1.1%	0.0%
	未経験(N=176)	11.4%	18.2%	1.1%	1.1%	1.7%	63.6%	2.8%	0.0%
χ^2 値(df=21)		26.09							

χ^2 値は男女別に行った参加4分類とのクロス表の分析結果。***:p<.001, **:p<.01, *:p<.05, †:p<.10
残差分析の結果、太字は5%水準(両側検定)で有意に高い、斜字は有意に低いことを示す

2.2 配偶者就業形態

配偶者の就業形態を比較した結果を表7に示す。先述の本人就業形態と合わせて見ると、男性の配偶者はパートと専業主婦の割合が高く、女性の配偶者ではフルタイムの割合が高いといった傾向が確認できる。男女それぞれの内部の比較において顕著な有意差の見られる点として、男性では「子供きっかけ」で妻のフルタイムの割合が有意に高かった(27.8%)。女性では「子供無関係」で夫のフルタイムの割合が有意に高く(79.6%)、「離脱」では無職の割合が高い(20.0%)などの特徴が見られた。配偶者就業形態の違いが本人の友人関係の有無に反映されていることの解釈として、配偶者の間で仕事と家事・育児の性役割分担(夫がフルタイム、妻がパート・専業主婦)が生じやすく、それ逆転した傾向として浮上した可能性が挙げられる。ただし、夫婦の一方が職場あるいは子育てに従事する過程で獲得した人間関係が、他方の人間関係の獲得にも影響している可能性も残る。

表 7 配偶者就業形態

	フルタイム	パート	派遣労働	自由業	自営業	専業主婦	無職	その他
男性(N=754)								
参加・子供きっかけ(N=198)	27.8%	36.4%	1.5%	0.5%	1.5%	26.3%	6.1%	0.0%
参加・子供無関係(N=183)	20.2%	35.5%	0.5%	0.5%	3.3%	35.5%	3.8%	0.5%
過去にいた・離脱(N=144)	18.8%	37.5%	3.5%	0.0%	2.1%	31.3%	6.3%	0.7%
未経験(N=229)	15.7%	33.2%	0.9%	1.7%	2.6%	35.8%	8.7%	1.3%
χ^2 値(df=21)	29.89 †							
女性(N=718)								
参加・子供きっかけ(N=205)	68.8%	4.9%	1.5%	3.4%	11.7%	1.0%	6.8%	2.0%
参加・子供無関係(N=157)	79.6%	1.3%	0.6%	1.9%	9.6%	0.6%	6.4%	0.0%
過去にいた・離脱(N=180)	60.6%	6.1%	1.1%	2.2%	7.2%	0.6%	20.0%	2.2%
未経験(N=176)	64.2%	4.0%	2.3%	0.6%	10.8%	2.8%	14.2%	1.1%
χ^2 値(df=21)	45.33 **							

χ^2 値は男女別に† χ^2 値は男女別に行った参加4分類とのクロス表の分析結果。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10
残差分析の結果、太字は5%水準(両側検定)で有意に高い、斜字は有意に低いことを示す

2.3 通算就業年数

男女それぞれの通算就業年数を計算したものを表 8 に示す。月単位の選択肢も年に換算して計算している。元の設問の文言は以下である。

「あなたの就業(就労)期間について、最もあてはまるものをお選びください。

※これまでの合計期間でお答えください。転職した場合も、初めて勤めた会社からの合計でお答えください。」

選択肢：「3か月未満」「3か月～6か月未満」「6か月～1年未満」「1年～2年未満」「2年～3年未満」「3年～4年未満」「4年～5年未満」「5年～10年未満」「10年～20年未満」「20年以上」

女性では、通算の就業年数も男性と比較して短くなっている。これは女性に専業主婦が多いという就業形態を反映しているためと考えられる。一方で、女性内部で比較すると有意差は見られなかった。また、男性では「子供無関係」の就業年数(15.77年)と比較して、「離脱」(17.85年)が有意に長くなっている。この理由の特定は困難であるが、可能性の一つとして、職歴が長くなるほど昇進などにより職務中心の人間関係に専念せざるをえず、結果として父親同士の関係から離脱するという過程が推測される。

表 8 通算就業年数

	Mean	SD	有意差
男性(N=754) 参加・子供きっかけ(N=198)	16.37	5.75	a, b
参加・子供無関係(N=183)	15.77	6.44	a
過去にいた・離脱(N=144)	17.85	5.38	b
未経験(N=229)	16.92	4.90	a, b
F値 (df=3, 750)		4.01	**

	Mean	SD	有意差
女性(N=702) 参加・子供きっかけ(N=201)	11.69	6.46	a
参加・子供無関係(N=153)	10.14	6.39	a
過去にいた・離脱(N=178)	11.75	6.47	a
未経験(N=170)	10.46	6.70	a
F値 (df=3, 698)		2.78	*

4群間の有意差の判定はTukey検定による。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10
アルファベット符号は、同符号のカテゴリ間で5%水準の有意差がないことを示す。

2.4 就業時間

有職者を対象に、平日の就業時間と通勤時間を問うた。設問の文言は以下である。

「あなたの平均就業時間と通勤時間についてご記載ください。」

※通勤時間については、片道の平均的な所要時間をお答えください。」(数値入力で、就業時間については時間単位、通勤時間については分単位で回答)

まず、平日の平均的な就業時間を比較した結果を表9に示す。男性では9時間程度、女性では6時間程度と、女性で短くなっている傾向が見られるが、男女それぞれの内部の比較では有意差が見られなかった。

表 9 就業時間

	Mean	SD	有意差
男性(N=705) 参加・子供きっかけ(N=194)	9.05	1.47	a
参加・子供無関係(N=177)	8.68	1.68	a
過去にいた・離脱(N=133)	8.75	2.14	a
未経験(N=201)	9.04	2.07	a
F値 (df=3, 701)		1.97	

	Mean	SD	有意差
女性(N=299) 参加・子供きっかけ(N=92)	5.96	1.92	a
参加・子供無関係(N=79)	6.30	1.99	a
過去にいた・離脱(N=69)	6.36	2.70	a
未経験(N=59)	6.12	2.13	a
F値 (df=3, 295)		0.58	

4群間の有意差の判定はTukey検定による。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10
アルファベット符号は、同符号のカテゴリ間で5%水準の有意差がないことを示す。

2.5 通勤時間

平日の平均的な通勤時間を比較した結果を表 10 に示す。就業時間と同様、男性より女性の方が短くなっているが、男女内部での有意差は見られなかった。

表 10 通勤時間

	Mean	SD	有意差
男性(N=705) 参加・子供きっかけ(N=194)	42.11	29.21	a
参加・子供無関係(N=177)	41.05	29.83	a
過去にいた・離脱(N=133)	43.83	34.21	a
未経験(N=201)	40.13	28.37	a
F値 (df=3, 701)		0.44	

	Mean	SD	有意差
女性(N=299) 参加・子供きっかけ(N=92)	23.84	22.14	a
参加・子供無関係(N=79)	25.20	20.76	a
過去にいた・離脱(N=69)	22.33	18.80	a
未経験(N=59)	22.19	18.14	a
F値 (df=3, 295)		0.35	

4群間の有意差の判定はTukey検定による。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10
アルファベット符号は、同符号のカテゴリ間で5%水準の有意差がないことを示す。

2.6 育休・時短などの制度利用経験

育休・時短勤務などの制度を過去に利用した、または現在進行形で利用している割合を比較した。設問の文言は以下である。

「育児に関連した勤務・休暇制度の利用経験について、あなたにあてはまるものを全てお選びください。」

選択肢：「過去に、短時間勤務制度を利用したことがある」「過去に、産休・育児休暇制度を利用したことがある」「現在、短時間勤務制度を利用している」「現在、産休・育児休暇制度を利用している」「いずれも利用したことがない、利用していない」

元の設問では育休と時短勤務、および過去と現在の選択肢を別々に設けているが、本稿ではそれらを合算した。結果を表 11 に示す。女性と比較して男性ではそもそもの経験者の割合が低いのが、男性の内部では「子供きっかけ」(23.1%)と「子供無関係」(19.1%)で有意に経験者の割合が高い。また女性の内部では「子供無関係」の割合が高く(50.7%)、「離脱」が低くなっている(27.3%)。女性の結果の解釈は難しいが、男性は子供に関心のある群が育休取得にも意欲的である可能性が見て取れる。

表 11 育休・時短などの制度利用経験

		経験あり	経験なし
男性(N=643)	参加・子供きっかけ(N=182)	23.1%	76.9%
	参加・子供無関係(N=162)	19.1%	80.9%
	過去にいた・離脱(N=123)	8.9%	91.1%
	未経験(N=176)	5.1%	94.9%
χ^2 値(df=3)		29.24 ***	

		経験あり	経験なし
女性(N=280)	参加・子供きっかけ(N=85)	42.4%	57.6%
	参加・子供無関係(N=75)	50.7%	49.3%
	過去にいた・離脱(N=66)	27.3%	72.7%
	未経験(N=54)	33.3%	66.7%
χ^2 値(df=3)		9.20 *	

χ^2 値は男女別に行った参加4分類とのクロス表の分析結果。

***: $p < .001$, **: $p < .01$, *: $p < .05$, †: $p < .10$

3 同居状況

今回の調査では、以下の設問により、同居する家族の続柄と年齢を問うた。

- (1)「あなたと同居しているご家族として、あてはまるものを全てお選びください。

※あなたからみた続柄でお答えください。」

選択肢：「配偶者」「子ども」「父親」「母親」「配偶者の父親」「配偶者の母親」「兄」「弟」「姉」「妹」「その他親族(最大で5人分回答可)」「その他の同居人(最大で3人分回答可)」「一人暮らし/同居者はいない」

- (2)「前問にて『お子様と同居している』と回答した方にお伺いします。あなたと同居しているお子様の性別と年齢について、あてはまるものを全てお選びください。」

選択肢：男児・女兒を区別し、0～5歳および7～11歳については年齢のみ表示。それ以外では学齢を考慮し、「6歳(小学生未満)」「12歳(小学生)」「中学生」「高校生・高専生」「大学・短大・専門学校生」「大学院生」「社会人」「無職」という表示を採用。

- (3)「前問にて『お子様と同居している』と回答した方にお伺いします。あなたと同居しているお子様の人数について、それぞれ最もあてはまるものをお選びください。」

選択肢：(2)で回答した子供の性・年齢ごとに「1人」「2人」「3人以上」

- (4)「あなたと同居しているご家族の年齢(お子様を除く)について、それぞれ最もあてはまるものをお選びください。

※兄弟姉妹については、全員についてお答えください。」

選択肢：(1)で回答した子供以外の家族それぞれについて5歳刻みで「0～4歳」から「76～80歳」、および「81歳以上」

本章では以上の設問を基に家族の同居状況を計算し、同居人数、親世代との同居の有無、子供との同居の有無について概観する。

3.1 同居人数

まず、続柄ではなく単純な同居人数について着目し、比較を行った結果を表 12 に示す。男女ともに、友人関係 4 分類で人数に有意差はない。また、いずれのカテゴリーにおいても、平均的に同居者が 2 人前後となっている。結果の解釈として、友人関係の有無を規定するのは単純な人数ではなく家族の続柄や年齢であるためと考えられるが、そもそも核家族化が進んだ現状においては調査回答者の家族人数にも大きなばらつき(分散)が生じなくなっていることも有意差が出なかった原因と考えられる。

表 12 同居人数

	Mean	SD	有意差
男性(N=754)			
参加・子供きっかけ(N=198)	1.84	0.84	a
参加・子供無関係(N=183)	1.84	0.79	a
過去にいた・離脱(N=144)	2.06	0.90	a
未経験(N=229)	2.03	0.79	a
F値 (df=3, 750)		3.84	*
<hr/>			
	Mean	SD	有意差
女性(N=718)			
参加・子供きっかけ(N=205)	1.92	0.79	a
参加・子供無関係(N=157)	1.88	0.76	a
過去にいた・離脱(N=180)	1.86	0.88	a
未経験(N=176)	1.95	0.98	a
F値 (df=3, 714)		0.37	

4群間の有意差の判定はTukey検定による。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10
アルファベット符号は、同符号のカテゴリ間で5%水準の有意差がないことを示す。

3.2 親世代同居

回答者から見て親世代、回答者の子供から見て祖父母世代の人々との同居状況を表 13 に示す。左から順に、夫側の親、妻側の親、いずれかの親(夫側と妻側の%の合算)と同居している回答者の割合を示している(同居していない人の%は割愛)。

先行研究では、女性が自分の親と同居・近居することにより様々なサポートを得て人間関係に余裕ができる、といった指摘がある(久保 2001、前田 2004)。しかし今回の調査では、女性では「子供無関係」で妻(自分)の親、およびいずれかの親との同居の割合が比較的高いものの(妻の親 8.9%、いずれかの親 14.6%)、有意な差ではなく、必ずしもサポートの有無と同居者の割合が連動するわけではないことがうかがえる。また男性の場合、いずれかの親の同居割合が、「子供きっかけ」で有意に高く(18.7%)、「未経験」で有意に低くなっている(8.3%)。

3.3 子供同居

同居する子供の学齢について、「未就学子」「小学生」「中学生」「高校生・高専生」それぞれとの同居の有無を男女で比較した結果を表 14 に示す。複数の子供がおり、かつ学齢も異なる場合は、同じ回答者が別々の学齢で計上されることとなる。

当然のことながら、男女ともに「子供きっかけ」の友人関係は子供の存在が大きく影響を及ぼしており、同居の割合が有意に高くなっている。ただし女性の未就学子についてのみ、「子供きっかけ」ではなく「子供無関係」が有意になっている(54.1%)。この点については、子供そのものを介した関係よりも、子供とは関係なく形成された過去の友人関係がそのまま続いている可能性も考えられる。また、男女ともに「離脱」に関しては有意に低い結果となっている。これは、子供が成長した(手がからなくなった)ことを契機して、親同士のつながりが必ずしも必要ではなくなり、友人関係から離脱した可能性が考えられる。

表 13 親世代同居

		夫(自分)の親	妻の親	いずれかの親
男性(N=754)	参加・子供きっかけ(N=198)	15.2%	3.5%	18.7%
	参加・子供無関係(N=183)	15.3%	0.5%	15.8%
	過去にいた・離脱(N=144)	10.4%	3.5%	13.9%
	未経験(N=229)	6.1%	2.2%	8.3%
χ^2 値(df=3)		11.85 **	4.55	10.36 *
		夫の親	妻(自分)の親	いずれかの親
女性(N=718)	参加・子供きっかけ(N=205)	3.9%	3.9%	7.8%
	参加・子供無関係(N=157)	5.7%	8.9%	14.6%
	過去にいた・離脱(N=180)	5.0%	5.6%	10.6%
	未経験(N=176)	4.0%	5.7%	9.7%
χ^2 値(df=3)		0.91	4.13	4.61

χ^2 値は男女別に参加4分類と各カテゴリーの同居の有無とのクロス表の分析を行い、その結果をまとめたもの(「している」の数値のみ示す)。*******: $p < .001$, ******: $p < .01$, *****: $p < .05$, †: $p < .10$

表 14 子供同居

		未就学子	小学生	中学生	高校・高専
男性(N=754)	参加・子供きっかけ(N=198)	25.8%	34.8%	21.7%	24.2%
	参加・子供無関係(N=183)	25.1%	25.7%	14.8%	16.9%
	過去にいた・離脱(N=144)	6.9%	11.1%	9.0%	18.1%
	未経験(N=229)	21.0%	20.5%	10.0%	12.7%
χ^2 値(df=3)		21.99 ***	27.87 ***	15.76 **	9.86 *
		未就学子	小学生	中学生	高校・高専
女性(N=718)	参加・子供きっかけ(N=205)	25.9%	21.5%	13.2%	12.7%
	参加・子供無関係(N=157)	54.1%	15.3%	3.8%	5.1%
	過去にいた・離脱(N=180)	6.7%	7.8%	4.4%	5.0%
	未経験(N=176)	28.4%	12.5%	6.3%	5.7%
χ^2 値(df=3)		94.62 ***	15.24 **	15.82 **	11.86 **

χ^2 値は男女別に参加4分類と各学齢の子の同居の有無とのクロス表の分析を行い、その結果をまとめたもの(「している」の数値のみ示す)。*******: $p < .001$, ******: $p < .01$, *****: $p < .05$, †: $p < .10$

4 地元

本章では、回答者の居住地が地元であるかどうかという点に着目し、その傾向を概観する。

4.1 地元 4 分類

現在の居住地が「地元」と呼ぶことのできる場所であるかを回答者に問うた。その結果を表 15 に示す。元の設問の文言は以下である。なおこの設問は、婚姻形態が既婚以外の対象者も回答可能な設問となっている。

「あなたの現在のお住まいについて、最もあてはまるものをお選びください。

※地元とは・・・生まれ育った場所であり、自身の親や親族などが近くに居住している場所、としてお答えください。

※配偶者と離・死別されている場合は、離・死別した配偶者の地元かどうかについてお答えください。」

選択肢：「自身の地元」「自身の地元ではない」「配偶者の地元」「自身と配偶者の両方の地元」「自身と配偶者いずれの地元でもない」

地縁がある場合には頼れる人間関係の保持、情報へのアクセス可能性など、子育てを中心に多くのメリットがあると考えられる一方、過去の間人間関係というしがらみが残るとも考えられる。本節では、そのような地元の影響を確認する。

自身の地元か否か、さらに配偶者の地元か否かで $2 \times 2 = 4$ 通りの可能性があるので、その分布を確認する(自身の地元、配偶者の地元、両方の地元、地元でない、の 4 種類)。男性では「子供無関係」で「自身の地元」(47.5%) および「両方の地元」(13.1%) が有意に高く、「離脱」で「地元でない」が高かった(44.4%)。女性でも「子供無関係」で「自身の地元」(39.5%) および「両方の地元」(13.4%) が有意に高い結果となった。

4.2 地元 2 分類

前述の地元 4 分類を集計し直し、少なくとも自分または配偶者どちらか一方の地元であるか、完全に地縁のない非地元であるかの 2 カテゴリーに分類した。その結果を表 16 に示す。男女ともに「子供無関係」で「少なくとも一方の地元」の割合が有意に高く(男性 72.7%、女性 76.4%)、地縁の存在が現在の友人関係の有無に影響している様子がうかがえる。一方、男性でのみ「離脱」で「完全に非地元」の割合が高い(44.4%)。

表 15 地元 4 分類

		自身の地元	配偶者の地元	両方の地元	地元でない
男性(N=754)	参加・子供きっかけ(N=198)	43.4%	19.2%	6.6%	30.8%
	参加・子供無関係(N=183)	47.5%	12.0%	13.1%	27.3%
	過去にいた・離脱(N=144)	34.0%	16.7%	4.9%	44.4%
	未経験(N=229)	33.2%	20.5%	8.7%	37.6%
χ^2 値(df=9)		27.87 **			

		自身の地元	配偶者の地元	両方の地元	地元でない
女性(N=718)	参加・子供きっかけ(N=205)	20.5%	25.9%	9.8%	43.9%
	参加・子供無関係(N=157)	39.5%	23.6%	13.4%	23.6%
	過去にいた・離脱(N=180)	21.7%	27.2%	6.1%	45.0%
	未経験(N=176)	28.4%	22.7%	7.4%	41.5%
χ^2 値(df=9)		33.64 ***			

χ^2 値は男女別に行った参加4分類とのクロス表の分析結果。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10
残差分析の結果、**太字**は5%水準(両側検定)で有意に高い、*斜字*は有意に低いことを示す

表 16 地元 2 分類

		少なくとも一方の地元	完全に非地元
男性(N=754)	参加・子供きっかけ(N=198)	69.2%	30.8%
	参加・子供無関係(N=183)	72.7%	27.3%
	過去にいた・離脱(N=144)	55.6%	44.4%
	未経験(N=229)	62.4%	37.6%
χ^2 値(df=3)		12.59 **	

		少なくとも一方の地元	完全に非地元
女性(N=718)	参加・子供きっかけ(N=205)	56.1%	43.9%
	参加・子供無関係(N=157)	76.4%	23.6%
	過去にいた・離脱(N=180)	55.0%	45.0%
	未経験(N=176)	58.5%	41.5%
χ^2 値(df=3)		20.94 ***	

χ^2 値は男女別に行った参加4分類とのクロス表の分析結果。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10
残差分析の結果、**太字**は5%水準(両側検定)で有意に高い、*斜字*は有意に低いことを示す

5 子供関係イベントへの参加

本章では、回答者の子供関係イベントへの参加の状況について概観する。

5.1 イベント参加頻度の比較

子供に関連するイベントそれぞれについて、参加頻度を問うた。設問の文言は以下である。

「あなたの子ども関係のイベントへの参加について、あてはまるものをお選びください。」

選択肢：「毎回参加している」「ほとんど参加している」「どちらかというに参加している」「ときどき参加している」「一回も参加していない」

回答対象として提示したイベントは「父母会・保護者会」「PTA などの組織活動」「給食試食」「授業参観」「運動会・文化祭(学芸会)」「親子行事(芋掘り、果物狩りなど)」「入学式・卒業式」「その他」である。

最初に全体の傾向を確認するため、男性全体および女性全体の各イベントへの参加頻度を表 17 に示す。「その他」は省略。男性では「一度も参加していない」、女性では「毎回参加」という回答が多かった。全体として女性の方が参加割合が高いが、イベントの中でも運動会・文化祭、入学式・卒業式といった非日常的なイベントでは男性でも毎回参加する人が多い傾向が見られる。

表 17 イベント参加頻度の比較

		毎回参加	ほとんど参加	どちらかというに参加	ときどき参加	一回も参加していない
男性(N=754)	父母会・保護者会	7.4%	13.4%	12.7%	24.9%	41.5%
	PTAなどの組織活動	6.9%	8.2%	10.6%	19.1%	55.2%
	給食試食	3.1%	3.8%	5.6%	7.7%	79.8%
	授業参観	11.4%	15.6%	14.2%	26.7%	32.1%
	運動会・文化祭	30.1%	19.5%	12.2%	16.3%	21.9%
	親子行事	10.3%	13.8%	13.5%	16.2%	46.2%
	入学式・卒業式	34.6%	17.6%	10.7%	12.9%	24.1%
女性(N=718)	父母会・保護者会	31.5%	23.5%	9.7%	10.9%	24.4%
	PTAなどの組織活動	18.9%	19.8%	16.0%	11.8%	33.4%
	給食試食	15.3%	13.4%	9.1%	12.7%	49.6%
	授業参観	44.0%	17.8%	8.8%	6.5%	22.8%
	運動会・文化祭	54.5%	16.3%	4.5%	3.2%	21.6%
	親子行事	41.1%	18.8%	6.7%	6.1%	27.3%
	入学式・卒業式	63.2%	10.3%	3.9%	1.7%	20.9%

5.2 父母会・保護者会

「その他」を除く各種イベントについて男女それぞれで友人関係4分類の参加頻度の分布の比較を行なった。最初に、父母会・保護者会への参加について比較した結果を表 18 に示す。男性では「子供きっかけ」「子供無関係」の2群でイベントに参加する割合が有意に高く、「未経験」で一度も参加していない割合が高い(66.4%)。女性では特に「子供きっかけ」で「毎回参加」が多く(39.0%)、また男性と同様に「未経験」でイベントへの参加頻度が低くなっている。

5.3 PTA などの組織活動

PTA などの組織活動への参加について比較した結果を表 19 に示す。父母会などのイベントと同様、男性では「子供きっかけ」で参加頻度が有意に高く(毎回参加 13.6%、ほとんど参加 11.6%、どちらかというに参加 17.2%)、「未経験」で一度も参加していない人の割合が高い(82.1%)。女性でも

「未経験」で一度も参加していない割合が高いが(45.5%)、男性とは逆に「子供無関係」でも一度も参加していない人の割合が高い所が特徴的である(41.4%)。男性では子供にコミットする父親はPTA参加とも直接つながる一方、女性では就業形態や地縁など、より複雑な要因間の相関関係が背後に存在する可能性がある。

表 18 父母会・保護者会

	毎回参加	ほとんど参加	どちらかというに参加	ときどき参加	一回も参加していない
男性(N=754)					
参加・子供きっかけ(N=198)	15.2%	18.7%	17.2%	24.2%	24.7%
参加・子供無関係(N=183)	4.4%	19.1%	17.5%	30.1%	29.0%
過去にいた・離脱(N=144)	7.6%	11.1%	11.1%	29.2%	41.0%
未経験(N=229)	3.1%	5.7%	6.1%	18.8%	66.4%
χ^2 値(df=12)	118.91 ***				
女性(N=718)					
参加・子供きっかけ(N=205)	39.0%	28.8%	11.2%	8.3%	12.7%
参加・子供無関係(N=157)	30.6%	22.9%	9.6%	7.6%	29.3%
過去にいた・離脱(N=180)	33.9%	24.4%	8.9%	11.1%	21.7%
未経験(N=176)	21.0%	17.0%	9.1%	16.5%	36.4%
χ^2 値(df=12)	48.35 ***				

χ^2 値は男女別に行った参加4分類とのクロス表の分析結果。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10
残差分析の結果、**太字**は5%水準(両側検定)で有意に高い、*斜字*は有意に低いことを示す

表 19 PTAなどの組織活動

	毎回参加	ほとんど参加	どちらかというに参加	ときどき参加	一回も参加していない
男性(N=754)					
参加・子供きっかけ(N=198)	13.6%	11.6%	17.2%	22.2%	35.4%
参加・子供無関係(N=183)	7.7%	12.0%	11.5%	26.2%	42.6%
過去にいた・離脱(N=144)	5.6%	6.9%	9.7%	22.2%	55.6%
未経験(N=229)	1.3%	3.1%	4.8%	8.7%	82.1%
χ^2 値(df=12)	122.10 ***				
女性(N=718)					
参加・子供きっかけ(N=205)	22.0%	26.3%	18.0%	11.7%	22.0%
参加・子供無関係(N=157)	16.6%	19.1%	16.6%	6.4%	41.4%
過去にいた・離脱(N=180)	22.2%	19.4%	16.1%	14.4%	27.8%
未経験(N=176)	14.2%	13.1%	13.1%	14.2%	45.5%
χ^2 値(df=12)	40.82 ***				

χ^2 値は男女別に行った参加4分類とのクロス表の分析結果。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10
残差分析の結果、**太字**は5%水準(両側検定)で有意に高い、*斜字*は有意に低いことを示す

5.4 給食試食

給食試食への参加について比較した結果を表 20 に示す。男女ともに参加している割合が低く、若干女性の方が高くなっている程度である。男性の内部で比較すると、「子供きっかけ」で参加者の割合が有意に高く(参加した経験がある人が全体の 32.8%)、一度も参加していない人の割合が「未経験」で高い(92.1%)。女性でも「未経験」について同様の傾向が見られる(63.1%)。

表 20 給食試食

	毎回参加	ほとんど参加	どちらかというに参加	ときどき参加	一回も参加していない
男性(N=754)					
参加・子供きっかけ(N=198)	5.6%	6.6%	8.6%	12.1%	67.2%
参加・子供無関係(N=183)	2.2%	6.0%	8.2%	8.7%	74.9%
過去にいた・離脱(N=144)	2.8%	3.5%	3.5%	6.3%	84.0%
未経験(N=229)	1.7%	0.0%	2.2%	3.9%	92.1%
χ^2 値(df=12)	51.20 ***				
女性(N=718)					
参加・子供きっかけ(N=205)	19.0%	16.6%	10.7%	14.6%	39.0%
参加・子供無関係(N=157)	18.5%	14.6%	8.3%	12.1%	46.5%
過去にいた・離脱(N=180)	12.8%	13.3%	8.9%	13.9%	51.1%
未経験(N=176)	10.8%	8.5%	8.0%	9.7%	63.1%
χ^2 値(df=12)	25.40 *				

χ^2 値は男女別に行った参加4分類とのクロス表の分析結果。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10
残差分析の結果、**太字**は5%水準(両側検定)で有意に高い、*斜字*は有意に低いことを示す

5.5 授業参観

授業参観への参加について比較した結果を表 21 に示す。授業参観は基本的に平日に行われることが多いため、就業形態の違いから、毎回参加する割合が男性と比べて女性で高い結果となっている。また、男女それぞれの内部で比較すると、男女ともに「子供きっかけ」で「毎回参加」の割合が有意に高く(男性 19.2%、女性 52.7%)、「未経験」で「一回も参加していない」が有意に高かった(男性 49.3%、女性 31.8%)。

5.6 運動会・文化祭

運動会・文化祭への参加について比較した結果を表 22 に示す。運動会・文化祭でも毎回参加する割合は女性の方が高いが、男性でも授業参観の場合より高めになっている。男女それぞれの内部では、男女ともに「子供きっかけ」で毎回参加が有意に高く(男性 42.9%、女性 66.3%)、「未経験」で一度も参加していない割合が有意に高い(男性 33.6%、女性 30.1%)。その他、男女で異なる特徴として、男性では「離脱」で「ときどき参加」が 22.2%、「どちらかというに参加」が 18.8%と有意に高く、女性では「子供無関係」で「一回も参加していない」が有意に高い(28.7%)。女性では子供イベントと友人関係の有無が必ずしも連動していない傾向が見られた。

表 21 授業参観

	毎回参加	ほとんど参加	どちらかというに参加	ときどき参加	一回も参加していない
男性(N=754) 参加・子供きっかけ(N=198)	19.2%	18.7%	16.7%	27.3%	18.2%
参加・子供無関係(N=183)	9.8%	17.5%	17.5%	26.8%	28.4%
過去にいた・離脱(N=144)	6.3%	17.4%	15.3%	32.6%	28.5%
未経験(N=229)	9.2%	10.5%	8.7%	22.3%	49.3%
χ^2 値(df=12)	66.35 ***				

	毎回参加	ほとんど参加	どちらかというに参加	ときどき参加	一回も参加していない
女性(N=718) 参加・子供きっかけ(N=205)	52.7%	19.5%	9.8%	5.4%	12.7%
参加・子供無関係(N=157)	44.6%	14.6%	7.6%	4.5%	28.7%
過去にいた・離脱(N=180)	41.7%	20.6%	10.6%	6.7%	20.6%
未経験(N=176)	35.8%	15.9%	6.8%	9.7%	31.8%
χ^2 値(df=12)	32.94 **				

χ^2 値は男女別に行った参加4分類とのクロス表の分析結果。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10
 残差分析の結果、**太字**は5%水準(両側検定)で有意に高い、*斜字*は有意に低いことを示す

表 22 運動会・文化祭

	毎回参加	ほとんど参加	どちらかというに参加	ときどき参加	一回も参加していない
男性(N=754) 参加・子供きっかけ(N=198)	42.9%	20.2%	12.6%	11.1%	13.1%
参加・子供無関係(N=183)	31.1%	23.0%	10.4%	15.3%	20.2%
過去にいた・離脱(N=144)	20.1%	21.5%	18.8%	22.2%	17.4%
未経験(N=229)	24.5%	14.8%	9.2%	17.9%	33.6%
χ^2 値(df=12)	59.16 ***				

	毎回参加	ほとんど参加	どちらかというに参加	ときどき参加	一回も参加していない
女性(N=718) 参加・子供きっかけ(N=205)	66.3%	16.1%	5.4%	1.5%	10.7%
参加・子供無関係(N=157)	51.0%	12.7%	3.8%	3.8%	28.7%
過去にいた・離脱(N=180)	56.7%	18.3%	3.3%	2.2%	19.4%
未経験(N=176)	41.5%	17.6%	5.1%	5.7%	30.1%
χ^2 値(df=12)	41.53 ***				

χ^2 値は男女別に行った参加4分類とのクロス表の分析結果。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10
 残差分析の結果、**太字**は5%水準(両側検定)で有意に高い、*斜字*は有意に低いことを示す

5.7 親子行事

親子行事への参加について比較した結果を表 23 に示す。親子行事でも男性と比べて女性で全体的に「毎回参加」の割合が高かった。また、男女ともに、「未経験」で一度も参加していない割合が高かった(男性 65.5%、女性 39.2%)。また、男性では「子供きっかけ」で参加者割合が有意に高い傾向にある(「毎回参加」19.2%、「ほとんど参加」20.2%、「どちらかというに参加」19.7%)。

表 23 親子行事

	毎回参加	ほとんど参加	どちらかというに参加	ときどき参加	一回も参加していない
男性(N=754)					
参加・子供きっかけ(N=198)	19.2%	20.2%	19.7%	14.6%	26.3%
参加・子供無関係(N=183)	9.8%	14.8%	16.9%	18.6%	39.9%
過去にいた・離脱(N=144)	5.6%	13.9%	10.4%	19.4%	50.7%
未経験(N=229)	6.1%	7.4%	7.4%	13.5%	65.5%
χ^2 値(df=12)	90.04 ***				
女性(N=718)					
参加・子供きっかけ(N=205)	48.8%	22.0%	8.3%	3.9%	17.1%
参加・子供無関係(N=157)	43.9%	15.3%	6.4%	5.1%	29.3%
過去にいた・離脱(N=180)	43.3%	20.0%	5.0%	6.1%	25.6%
未経験(N=176)	27.3%	17.0%	6.8%	9.7%	39.2%
χ^2 値(df=12)	38.72 ***				

χ^2 値は男女別に行った参加4分類とのクロス表の分析結果。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10
 残差分析の結果、太字は5%水準(両側検定)で有意に高い、斜字は有意に低いことを示す

5.8 入学式・卒業式

子供の入学式・卒業式への参加について比較した結果を表 24 に示す。入学式・卒業式のイベントについても、男性と比較して女性の方が毎回参加の割合が高かった。全体的に運動会・文化祭の傾向と類似しており、男女ともに「子供きっかけ」で「毎回参加」(男性 50.0%、女性 75.6%)、「未経験」で「一回も参加していない」の割合が有意に高い(男性 39.7%、女性 29.0%)ほか、男性の「離脱」で「ほとんど参加」(26.4%)と「ときどき参加」(23.6%)、女性の「子供無関係」で「一回も参加していない」(28.7%)の割合が高くなっている。

表 24 入学式・卒業式

	毎回参加	ほとんど参加	どちらかというに参加	ときどき参加	一回も参加していない
男性(N=754)					
参加・子供きっかけ(N=198)	50.0%	18.7%	11.6%	7.6%	12.1%
参加・子供無関係(N=183)	38.3%	16.4%	12.6%	9.8%	23.0%
過去にいた・離脱(N=144)	20.8%	26.4%	11.8%	23.6%	17.4%
未経験(N=229)	27.1%	12.2%	7.9%	13.1%	39.7%
χ^2 値(df=12)	95.20 ***				
女性(N=718)					
参加・子供きっかけ(N=205)	75.6%	9.3%	3.4%	1.5%	10.2%
参加・子供無関係(N=157)	56.7%	8.3%	4.5%	1.9%	28.7%
過去にいた・離脱(N=180)	63.9%	11.7%	4.4%	1.7%	18.3%
未経験(N=176)	54.0%	11.9%	3.4%	1.7%	29.0%
χ^2 値(df=12)	32.38 **				

χ^2 値は男女別に行った参加4分類とのクロス表の分析結果。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10
 残差分析の結果、太字は5%水準(両側検定)で有意に高い、斜字は有意に低いことを示す

6 仕事と家事育児の関係

本章では、家事育児分担納得感、仕事と家事のバランス、家事と仕事の両立実感について概観する。

6.1 家事育児分担納得感

配偶者との間での家事・育児分担の納得感(4件法)について平均値を求めた結果を表25に示す。設問の文言は以下である。

「配偶者との仕事・家事育児の分担方法や割合などに関して、あなたは納得していますか。最もあてはまるものをお選びください。」

選択肢：「納得している」「どちらかという納得している」「どちらかという納得していない」「納得していない」

男性では3.1～3.3、女性では2.8～2.9程度と、女性の方で平均値が低めになっており、男女で納得感は不均衡となっている様子が見受けられる。男女それぞれの内部で比較すると、女性では有意差がないが、男性では「未経験」で「子供きっかけ」よりも有意に納得感が低くなっている(3.08)。

表 25 家事育児分担納得感

	Mean	SD	有意差
男性(N=743) 参加・子供きっかけ(N=197)	3.31	0.66	a
参加・子供無関係(N=183)	3.24	0.66	a, b
過去にいた・離脱(N=141)	3.16	0.61	a, b
未経験(N=222)	3.08	0.65	b
F値 (df=3, 739)		4.75	**

	Mean	SD	有意差
女性(N=698) 参加・子供きっかけ(N=201)	2.91	0.89	a
参加・子供無関係(N=155)	2.87	0.75	a
過去にいた・離脱(N=172)	2.88	0.88	a
未経験(N=170)	2.88	0.93	a
F値 (df=3, 694)		0.07	

4群間の有意差の判定はTukey検定による。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10
アルファベット符号は、同符号のカテゴリ間で5%水準の有意差がないことを示す。

6.2 仕事と家事育児のバランス

有職者を対象に、仕事と家事育児のバランスについて問うた設問(5件法)の平均値を表26に示す。値が高いほど、比重がより家事育児に置かれていることを示す。設問の文言は以下である。

「あなたの生活実態として、仕事と家事育児のどちらに生活の重みが置かれていますか？最もあてはまるものをお選びください。」

選択肢：「仕事の方が大きい」「どちらかという仕事の方が大きい」「仕事と家事育児が同じくらい」「どちらかという家事育児の方が大きい」「家事育児の方が大きい」

女性では専業主婦の割合が高いため、この設問では欠損値が大きいことに注意が必要である。結果を見ると、男性と比べて女性では家事育児負担の比重が高い傾向にある。また、男女それぞれの内部で比較すると、男性では有意差がなく、女性では「子供無関係」で有意に家事育児の比重が高い(3.71)。就業形態で「子供無関係」のフルタイム労働者の割合が有意に高く、専業主婦が有意に低かったことが反映されている可能性がある。

6.3 両立実感

有職者を対象に、仕事と家事育児の両立ができているかどうかを問うた設問(4件法)の平均値を表27に示す。設問の文言は以下である。

「現在、あなたは「仕事」と「家事・育児」を両立できていると思いますか。最もあてはまるものをお選びください。」

選択肢：「両立できている」「どちらかという両立できている」「どちらかという両立できていない」「両立できていない」

本設問においても、女性では欠損値が大きいことに注意が必要である。結果を見ると、男女の間では平均値に大きな差は見られなかった。男女それぞれの内部では、「未経験」で男女ともに実感の度合いが有意に低い結果となった(男性 2.57、女性 2.59)。

表 26 仕事と家事育児のバランス

	Mean	SD	有意差
男性(N=705) 参加・子供きっかけ(N=194)	1.92	0.87	a
参加・子供無関係(N=177)	1.80	0.81	a
過去にいた・離脱(N=133)	1.82	0.79	a
未経験(N=201)	1.98	0.94	a
F値 (df=3, 701)			1.78

	Mean	SD	有意差
女性(N=299) 参加・子供きっかけ(N=92)	3.20	1.11	a
参加・子供無関係(N=79)	3.71	1.11	b
過去にいた・離脱(N=69)	2.96	1.12	a
未経験(N=59)	3.03	1.23	a
F値 (df=3, 295)			6.60 ***

4群間の有意差の判定はTukey検定による。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10
アルファベット符号は、同符号のカテゴリ間で5%水準の有意差がないことを示す。

表 27 両立実感

	Mean	SD	有意差
男性(N=705) 参加・子供きっかけ(N=194)	2.93	0.78	a
参加・子供無関係(N=177)	2.81	0.79	a
過去にいた・離脱(N=133)	2.81	0.80	a
未経験(N=201)	2.57	0.88	b
F値 (df=3, 701)			7.00 ***

	Mean	SD	有意差
女性(N=299) 参加・子供きっかけ(N=92)	3.03	0.60	a
参加・子供無関係(N=79)	2.82	0.64	a, b
過去にいた・離脱(N=69)	2.94	0.68	a
未経験(N=59)	2.59	0.83	b
F値 (df=3, 295)			5.40 **

4群間の有意差の判定はTukey検定による。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10
アルファベット符号は、同符号のカテゴリ間で5%水準の有意差がないことを示す。

7 サポート源

本章では、回答者が持っているサポート源について概観する。本調査では「経済的サポート」「家事のサポート」「育児のサポート」「相談などの精神面でのサポート」の4種類を対象に、マルチアンサー形式でサポートを受けられる間柄の人間関係の有無について問うた。設問の文言は以下である。

「以下の項目について、あなたをサポートしてくれる人としてあてはまるものをそれぞれすべてお選びください。」

選択肢：「自身の親」「自身の兄弟姉妹」「配偶者の親」「配偶者の兄弟姉妹」「その他」

その上で、サポートの種類ごとに「ある」と回答された続柄の数を合計し、サポート源数と見なした。ただし「その他」の自由記述内容を確認し、配偶者や自分の子供と書かれているような場合には、家族外部からのサポートという趣旨に沿わないため除外している。

7.1 経済的サポート源数

経済的サポート源数についての結果を表 28 に示す。男女ともに参加者（「子供きっかけ」「子供無関係」）の 2 群が不参加者（「離脱」「未経験」）の 2 群と比べて有意にサポート源数が多いという共通の傾向を見て取ることができる。男女共通傾向という結果から、経済的サポートが世帯単位に対して行われていると推察できる。また、親同士の友人グループへの参加と経済的サポートの関係性については、身内からのサポートに乏しい親が補完的機能を求めて参加するというより、既にサポートを有する人が友人関係にも乗り出しネットワークを拡大しているという解釈が整合的である。

表 28 経済的サポート源数

	Mean	SD	有意差
男性(N=754) 参加・子供きっかけ(N=198)	0.59	0.84	a
参加・子供無関係(N=183)	0.64	0.84	a
過去にいた・離脱(N=144)	0.33	0.60	b
未経験(N=229)	0.32	0.65	b
F値 (df=3, 750)		10.05	***

	Mean	SD	有意差
女性(N=718) 参加・子供きっかけ(N=205)	0.50	0.73	a
参加・子供無関係(N=157)	0.64	0.76	a
過去にいた・離脱(N=180)	0.27	0.56	b
未経験(N=176)	0.28	0.53	b
F値 (df=3, 714)		13.26	***

4群間の有意差の判定はTukey検定による。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10
アルファベット符号は、同符号のカテゴリ間で5%水準の有意差がないことを示す。

7.2 家事サポート源数

家事サポート源数についての結果を表 29 に示す。経済的サポートの場合と異なり、男女で異なる傾向が見られる。男性では「子供きっかけ」「子供無関係」の 2 群と「離脱」「未経験」の 2 群とに有意差があるが、女性では「子供無関係」と「子供きっかけ」の間にも差がある（「子供無関係」0.45、「子供きっかけ」0.20）。この結果からは、男性と同様のサポートと友人活動との拡大的關係が女性でも生じていることに加え、女性の「子供無関係」でフルタイム労働者が多い（「子供きっかけ」ではそれよりは少ない）という就業形態が影響し、このような大小関係になっていることが推察される。

表 29 家事サポート源数

	Mean	SD	有意差
男性(N=754) 参加・子供きっかけ(N=198)	0.44	0.67	a
参加・子供無関係(N=183)	0.48	0.83	a
過去にいた・離脱(N=144)	0.20	0.47	b
未経験(N=229)	0.17	0.46	b
F値 (df=3, 750)		12.80	***

	Mean	SD	有意差
女性(N=718) 参加・子供きっかけ(N=205)	0.20	0.42	a
参加・子供無関係(N=157)	0.45	0.63	b
過去にいた・離脱(N=180)	0.10	0.32	a
未経験(N=176)	0.11	0.33	a
F値 (df=3, 714)		22.33	***

4群間の有意差の判定はTukey検定による。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10
アルファベット符号は、同符号のカテゴリ間で5%水準の有意差がないことを示す。

7.3 育児サポート源数

育児サポート源数についての結果を表 30 に示す。家事サポートと同様に男女で異なる傾向が生じており、男性では「子供きっかけ」「子供無関係」の2群のサポートが多いが、女性では「子供無関係」と「子供きっかけ」の間にも有意差が見られる(「子供無関係」0.96、「子供きっかけ」0.50)。

表 30 育児サポート源数

	Mean	SD	有意差
男性(N=754) 参加・子供きっかけ(N=198)	0.63	0.79	a
参加・子供無関係(N=183)	0.72	1.01	a
過去にいた・離脱(N=144)	0.33	0.63	b
未経験(N=229)	0.31	0.63	b
F値 (df=3, 750)		13.38	***

	Mean	SD	有意差
女性(N=718) 参加・子供きっかけ(N=205)	0.50	0.73	a
参加・子供無関係(N=157)	0.96	0.99	b
過去にいた・離脱(N=180)	0.19	0.50	c
未経験(N=176)	0.31	0.62	c
F値 (df=3, 714)		36.28	***

4群間の有意差の判定はTukey検定による。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10
アルファベット符号は、同符号のカテゴリ間で5%水準の有意差がないことを示す。

7.4 精神的サポート源数

精神的サポート源数についての結果を表 31 に示す。家事・育児サポートと異なり、精神的サポートの授受は就業形態や家事育児分担の男女差の影響を受けにくいと予想されたが、結果的に同様の男女差が生じている。男性では「子供きっかけ」「子供無関係」2群のサポート源が多いが(「子供きっかけ」0.63、「子供無関係」0.74)、女性ではそれに加え、「子供きっかけ」と「子供無関係」

の間にも有意差が見られる(「子供きっかけ」0.60、「子供無関係」0.97)。「子供無関係」で専業主婦が少ないという就業形態の違いが、何らかの形で精神的サポートにも影響を及ぼしている可能性がある。

表 31 精神的サポート源数

	Mean	SD	有意差
男性(N=754) 参加・子供きっかけ(N=198)	0.63	0.92	a
参加・子供無関係(N=183)	0.74	1.10	a
過去にいた・離脱(N=144)	0.34	0.66	b
未経験(N=229)	0.18	0.47	b
F値 (df=3, 750)		20.03	***

	Mean	SD	有意差
女性(N=718) 参加・子供きっかけ(N=205)	0.60	0.83	a
参加・子供無関係(N=157)	0.97	1.02	b
過去にいた・離脱(N=180)	0.29	0.62	c
未経験(N=176)	0.31	0.62	c
F値 (df=3, 714)		27.39	***

4群間の有意差の判定はTukey検定による。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10
アルファベット符号は、同符号のカテゴリ間で5%水準の有意差がないことを示す。

8 友人グループ参加者の当初の参加意向・期待感

本章では、友人グループ参加者の参加当初の参加意向およびグループに対する期待感について概観する。

8.1 当初の参加意向

「子供きっかけ」のカテゴリの回答者について、当初の参加意向がどのようであったのかを問うた(4件法)。設問の文言は以下である。

「あなたは、パパ友・ママ友グループにどの程度加入したいと思っていましたか。最もあてはまるものをお選びください。」

選択肢：「自分が希望して所属した」「周りの人(グループに既に入っていた人、一緒にいる人)から誘われて、自ら望んで所属した」「周りの人(グループに既に入っていた人、一緒にいる人)から誘われて、乗り気ではなかったが所属した」「所属したくなかったが、所属せざるをえなかった」

回答の結果を表 32 に示す。男女ともに「誘われ、自分で希望して所属」の割合が最も高い(男性 39.9%、女性 46.8%)。その一方、女性では「自分が希望して所属」の割合が高いが(43.4%)、男性ではより消極的な選択肢の割合が高い(「所属せざるをえなかった」13.6%、「誘われ、乗り気で

はなかったが所属」15.7%)といった男女差が見られる。

表 32 当初の参加意向

	誘われ、乗り気			
	所属せざるをえ なかった	ではなかったが 所属	誘われ、自分で 希望して所属	自分が希望して 所属
男性(N=198) 参加・子供きっかけ(N=198)	13.6%	15.7%	39.9%	30.8%
女性(N=205) 参加・子供きっかけ(N=205)	5.9%	3.9%	46.8%	43.4%

8.2 当初の期待感

「子供無関係」を含む友人グループ参加者に対し、当初の期待感を問うた(4件法)。設問の文言は以下である。

「あなたは、パパ友・ママ友グループに対して、事前にどの程度期待していましたか。」
 選択肢：「期待していた」「どちらかという期待していた」「どちらかという期待していなかった」
 「期待していなかった」

回答結果について、「期待していた」を4、「期待していなかった」を1として平均値を計算した値を表33に示す。男女ともに「子供きっかけ」と「子供無関係」で有意差は見られなかった。

表 33 当初の期待感

	Mean	SD	有意差
男性(N=381) 参加・子供きっかけ(N=198)	2.61	0.82	
参加・子供無関係(N=183)	2.52	0.80	
t値 (df=379)		0.98	
	Mean	SD	有意差
女性(N=362) 参加・子供きっかけ(N=205)	2.61	0.72	
参加・子供無関係(N=157)	2.55	0.66	
t値 (df=360)		0.82	

2群間の有意差の判定はt検定による。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10

8.3 参加者の今後の参加意向

友人グループへの参加者に今後の参加意向を問うた(4件法)。設問の文言は以下である。

「あなたは、将来も、パパ友・ママ友グループにどの程度所属したいと思っていますか。」

選択肢：「ずっと所属したい」「どちらでも良い」「離れたくない」「離れる予定である」)

回答結果の平均値を表 34 に示す。当初の期待感と同様、男女ともに「子供きっかけ」と「子供無関係」との間に今後の参加意向に有意差は見られなかった。

表 34 参加者の今後の参加意向

	Mean	SD	有意差
男性(N=381) 参加・子供きっかけ(N=198)	3.24	0.73	
参加・子供無関係(N=183)	3.16	0.73	
t値 (df=379)		1.05	
<hr/>			
	Mean	SD	有意差
女性(N=362) 参加・子供きっかけ(N=205)	3.39	0.70	
参加・子供無関係(N=157)	3.33	0.68	
t値 (df=360)		0.74	

2群間の有意差の判定はt検定による。***: p< .001, **: p< .01, *: p< .05, †: p< .10

9 友人グループ不参加者の今後の参加意向・参加予定

本章では、友人グループ不参加者の今後の参加意向および参加予定について概観する。

9.1 不参加者の今後の参加意向

現在友人グループに参加していない「離脱」と「未経験」の回答者に対して、今後のグループへの参加意向の有無を問うた(4件法)。設問の文言は以下である。

「あなたは、(自分を含めメンバーが3人以上の)パパ友・ママ友グループに所属していないとお答えですが、パパ友・ママ友グループに対する現在のお気持ちについて、最も近いものをお選びください。」

選択肢：「所属したい」「所属してもよい」「所属することに気が進まない」「所属したくない」

今後の親同士の友人グループへの参加意向について、平均値を比較した結果を表 35 に示す。男女ともに有意差があり、離脱者と比べて未経験者は今後の参加にも消極的な傾向があることが分かった(男性 1.45、女性 1.59)。

表 35 不参加者の今後の参加意向

		Mean	SD	有意差
男性(N=373)	過去にいた・離脱(N=144)	2.06	0.83	***
	未経験(N=229)	1.45	0.70	
		t値 (df=371)	7.32	

		Mean	SD	有意差
女性(N=356)	過去にいた・離脱(N=180)	1.94	0.93	***
	未経験(N=176)	1.59	0.86	
		t値 (df=354)	3.72	

2群間の有意差の判定はt検定による。***: p< .001, **: p< .01, *: p< .05, †: p< .10

9.2 今後の参加予定

今後のグループへの参加予定について問うた(5件法)。設問の文言は以下である。

「あなたは今後、(自分を含めメンバーが3人以上の)パパ友・ママ友グループに所属したいと思いますか。」

選択肢：「参加する予定である」「予定はないが、是非とも参加してみたい」「機会があれば参加してみたい」「参加するかどうか分からない」「参加したいとは思わない」

回答結果を表 36 に示す。これを見ると、男女ともに「離脱」で参加の可能性がある旨の選択肢を選んだ割合が有意に高く、逆に「未経験」では「参加したいとは思わない」(男性 76.4%、女性 67.0%)の割合が高い。今後の参加意向と同様、離脱者と比べて未経験者の方がグループ参加について消極的な傾向が表れている。

表 36 今後の参加予定

		参加したい	参加するか	機会があれば	予定はないが	参加する
		とは思わない	わからない	参加したい	参加したい	予定
男性(N=373)	過去にいた・離脱(N=144)	47.2%	19.4%	23.6%	9.0%	0.7%
	未経験(N=229)	76.4%	14.0%	8.3%	0.4%	0.9%
		χ^2 値(df=4)	45.22	***		
女性(N=356)	過去にいた・離脱(N=180)	55.6%	20.6%	16.7%	5.0%	2.2%
	未経験(N=176)	67.0%	18.8%	9.7%	4.5%	0.0%
		χ^2 値(df=4)	9.33	†		

χ^2 値は男女別に行った参加4分類とのクロス表の分析結果。***: p< .001, **: p< .01, *: p< .05, †: p< .10

残差分析の結果、太字は5%水準(両側検定)で有意に高い、斜字は有意に低いことを示す

10 コミュニケーションの実態

本章では、回答者がグループで直接会う頻度、グループで連絡を取っている頻度、日頃利用している通信手段、友人グループ内で利用している通信手段について概観する。

10.1 グループで直接会う頻度

友人グループに参加している回答者に対して、他のグループのメンバーと直接会ってコミュニケーションを取っている頻度、および間接的に SNS などの手段を用いてコミュニケーションを取っている頻度を問うた。設問の文言は以下である。

「あなたは、パパ友・ママ友グループの方々とどのぐらいの頻度で直接会っていますか、また、連絡を取っていますか。それぞれあてはまるものをお選びください。」

選択肢：「ほぼ毎日」「週 4～5 日程度」「週に 2～3 回程度」「週に 1 回程度」「2 週間に 1 回程度」「月に 1 回程度」「3 ヶ月に 1 回程度」「半年に 1 回程度」「一年に 1 回程度」「それよりも低い頻度」

「直接会っている頻度」について、得られた回答を基に 1 年間の回数を計算した（「ほぼ毎日」は 365 回、「それよりも低い頻度」は 0 回、「4～5 日」は 4.5 回とし、週については 1 年を 52 週換算とした）。この回数を基に平均値を比較した結果を表 37 に示す。これを見ると、男女ともに「子供きっかけ」と「子供無関係」とで頻度に有意差は見られなかった。

表 37 グループで直接会う頻度

	Mean	SD	有意差
男性(N=381) 参加・子供きっかけ(N=198)	38.78	72.59	
参加・子供無関係(N=183)	32.43	65.37	
t値 (df=379)		0.89	
	Mean	SD	有意差
女性(N=362) 参加・子供きっかけ(N=205)	33.85	66.98	
参加・子供無関係(N=157)	38.25	79.30	
t値 (df=360)		-0.57	

2群間の有意差の判定はt検定による。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10

10.2 グループで連絡を取っている頻度

グループで連絡を取っている頻度（電話やメール、SNS など）について、平均値を比較した結果を表 38 に示す。頻度の計算方法は「直接会っている頻度」の場合と同様である。男性の場合では「子供きっかけ」と「子供無関係」に有意差はないが、女性では「子供無関係」で連絡を取っている頻度が有意に高いという結果となった。

表 38 グループで連絡を取っている頻度

	Mean	SD	有意差
男性(N=381) 参加・子供きっかけ(N=198)	53.57	84.71	
参加・子供無関係(N=183)	47.63	76.66	
t値 (df=379)			0.72

	Mean	SD	有意差
女性(N=362) 参加・子供きっかけ(N=205)	48.68	71.90	*
参加・子供無関係(N=157)	74.89	109.77	
t値 (df=360)			-2.60

2群間の有意差の判定はt検定による。***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10

10.4 利用している通信手段

友人グループへの不参加者も含めた4群に対し、日常的な利用がある通信手段をマルチアンサー形式で問うた。設問の文言は以下である。

「普段、あなたがよく使う連絡手段サービス・アプリとして、あてはまるものをすべてお選びください。」

選択肢：「mixi(ミクシィ)」「Facebook(フェイスブック)投稿機能」「Facebook(フェイスブック)通話機能」「LinkedIn(リンクトイン)」「Twitter(ツイッター)」「LINE(ライン)メッセージ機能」「LINE(ライン)通話機能」「Instagram(インスタグラム)」「スナップチャット」「固定電話/携帯電話の音声通話 (LINE 通話を含まない)」「パソコン/携帯電話のメール」「その他」「あてはまるものはない)」

回答結果を表 39 に示す。なお表では、各通信手段について「ある」と答えた者の割合と、4群の間での有意差について示している。まず男女で比べて見ると、Facebook 投稿機能で若干男性の利用割合が高いが、全体的にはおおよそ似たような傾向であり、男女問わず LINE メッセージ機能が人気となっている傾向が確認できる。

次に、男女それぞれの内部で比較すると、男性では Facebook の投稿機能、通話機能ともに「子供きっかけ」で利用割合が有意に高い、女性では Facebook 投稿機能で「子供無関係」の割合が高いといった傾向が見られる。この結果の解釈として、父親や母親が Facebook で子供に関する情報を発信している可能性がある。また、LINE メッセージでは男性で「子供きっかけ」の利用割合が有意に高いほか(71.7%)、女性では参加者の 2 群が不参加者の 2 群より利用している割合が高い(「子供きっかけ」で 80.5%、「子供無関係」で 88.5%)。男女で比べると、女性の方で明確な 4 群間の利用実態の差が出ており、ママ友グループで LINE が活用されている実態が示唆されている。その他、固定電話/携帯電話の音声通話、パソコン/携帯電話のメールといった、比較的従来から存在している通信手段については、男女ともに不参加者の方が多く利用する傾向が確認できる。

表 39 利用している通信手段

		mixi	Facebook 投稿機能	Facebook 通話機能	LinkedIn	Twitter
男性(N=754)	参加・子供きっかけ(N=198)	7.1%	30.3%	10.1%	4.0%	18.7%
	参加・子供無関係(N=183)	6.0%	25.1%	8.2%	3.3%	20.2%
	過去にいた・離脱(N=144)	3.5%	19.4%	5.6%	2.1%	13.2%
	未経験(N=229)	2.2%	10.0%	1.7%	0.0%	7.9%
χ^2 値(df=3)		6.99 †	29.16 ***	14.27 **	9.04 *	15.74 **

LINE メッセージ 機能	LINE 通話機能	Instagram	スナップ チャット	固定電話/ 携帯電話の 音声通話	パソコン/ 携帯電話の メール
71.7%	29.3%	12.1%	3.0%	38.9%	47.5%
66.1%	31.1%	8.7%	1.1%	30.6%	38.8%
62.5%	36.1%	6.9%	0.0%	52.1%	60.4%
46.3%	21.4%	4.4%	0.0%	49.3%	52.4%
32.50 ***	10.41 *	9.07 *	11.32 *	21.45 ***	16.34 **

		mixi	Facebook 投稿機能	Facebook 通話機能	LinkedIn	Twitter
女性(N=718)	参加・子供きっかけ(N=205)	2.9%	12.2%	2.4%	1.0%	8.8%
	参加・子供無関係(N=157)	3.8%	16.6%	1.9%	0.0%	14.0%
	過去にいた・離脱(N=180)	3.9%	6.7%	2.8%	0.0%	7.8%
	未経験(N=176)	1.7%	13.1%	1.1%	0.0%	9.1%
χ^2 値(df=3)		1.82	8.15 *	1.35	5.02	4.34

LINE メッセージ 機能	LINE 通話機能	Instagram	スナップ チャット	固定電話/ 携帯電話の 音声通話	パソコン/ 携帯電話の メール
80.5%	29.8%	8.3%	0.0%	34.6%	36.6%
88.5%	40.1%	20.4%	0.0%	31.8%	28.0%
72.2%	36.1%	7.2%	1.1%	57.8%	58.9%
60.2%	30.1%	13.1%	0.6%	46.6%	48.3%
59.40 ***	5.81	17.38 **	3.69	30.81 ***	38.31 ***

χ^2 値は男女別に参加4分類と各通信手段利用有無とのクロス表の分析を行い、その結果をまとめたもの（「利用あり」の数値のみ示す）。

***: p < .001, **: p < .01, *: p < .05, †: p < .10

残差分析の結果、太字は5%水準(両側検定)で有意に高い、斜字は有意に低いことを示す

10.4 友人グループで最も利用する通信手段

再び友人グループ参加者のみを対象として、グループで最も利用する通信手段についてシングルアンサー形式で問うた結果を表 40 に示す。設問の文言は以下である。

「あなたがパパ友/ママ友とのコミュニケーションの際に最もよく使う連絡手段サービス・アプリとして、あてはまるものをひとつだけお選びください。

選択肢：利用している通信手段の設問と同じ。ただし、「あてはまるものはない」に替えて「ママ

友/パパ友とのコミュニケーションには利用していない」を採用した。

結果、男性の5割以上、女性の7割以上がLINEのメッセージ機能と答えており、友人活動にLINEが大きな役割を果たしていることがうかがえる。

表 40 友人グループで最も利用する通信手段

		mixi	Facebook 投稿機能	Facebook 通話機能	LinkedIn	Twitter
男性(N=355)	参加・子供きっかけ(N=185)	0.5%	4.9%	0.5%	1.1%	1.1%
	参加・子供無関係(N=170)	0.6%	4.1%	0.0%	1.2%	4.1%
χ^2 値(df=10)		7.07				

LINE メッセージ 機能	LINE 通話機能	Instagram	スナップ チャット	固定電話/ 携帯電話の 音声通話	パソコン/ 携帯電話の メール	その他	あてはまる ものはない
58.4%	4.9%	0.0%	0.0%	5.4%	17.3%	0.0%	5.9%
57.1%	5.9%	0.0%	0.0%	5.9%	12.9%	0.6%	7.6%

		mixi	Facebook 投稿機能	Facebook 通話機能	LinkedIn	Twitter
女性(N=357)	参加・子供きっかけ(N=202)	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	参加・子供無関係(N=155)	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	0.6%
χ^2 値(df=8)		10.95				

LINE メッセージ 機能	LINE 通話機能	Instagram	スナップ チャット	固定電話/ 携帯電話の 音声通話	パソコン/ 携帯電話の メール	その他	あてはまる ものはない
71.8%	2.5%	0.0%	0.0%	5.4%	14.4%	0.5%	4.5%
79.4%	1.9%	1.9%	0.0%	2.6%	9.0%	0.0%	3.2%

χ^2 値は男女別に行った参加2分類とのクロス表の分析結果。***: $p < .001$, **: $p < .01$, *: $p < .05$, †: $p < .10$
残差分析の結果、**太字**は5%水準(両側検定)で有意に高い、*斜字*は有意に低いことを示す

11 参加・不参加理由の自由記述の分類

本章では、友人グループへの参加・不参加の理由の回答を分類し、その結果を示す。調査開始時に行った対象者のスクリーニングとは別個に、友人グループへの参加者には参加理由について、不参加者には不参加理由について、それぞれ具体的な理由を自由記述形式で回答する項目を設けた。参加者については「これからもグループに所属したいですか」、不参加者については「今後グループに参加したいですか」という文言で示した。この自由記述内容について、筆者らの研究チームにおいて議論を重ねつつ、手作業で分類を行った。共通・類似した回答同士から小分類

を作成し、さらに類似した内容の小分類同士を統合し、意味内容的にそれ以上の統合が困難となった時点の分類を用いることとした。最終的に、以下のカテゴリーに分類した。

参加者の理由の記述については、(1)情報を得るため、(2)話す・相談する話題を共有するため、(3)孤独感解消・安心感・気分転換のため、(4)集まること自体・交流・人間関係を築くため、(5)旅行・食事・遊びなどのイベントのため、(6)子供のため、(7)支援・協力を得るため、(8)その他の何らかのメリットのため、(9)親自身の同級生・学校の先輩後輩関係(同窓関係)、(10)親自身の仕事・職場関係、(11)その他の親自身のきっかけの関係、(12)共通点のある親同士がきっかけとなる関係、(13)子供の保育園・幼稚園・学校関係、(14)子供のスポーツ・習い事・塾などの関係、(15)近所・同じ地域の親同士の関係、(16)その他の子供きっかけの関係、(17)義務・付き合い、(18)その他の記述、(19)特別な理由なし・なんとなく、と分類した。さらにより大まかな分類として(1)～(8)を「目的的理由」、(9)～(16)を「契機的理由」、(17)を「義務的理由」とした。

不参加者の理由の記述については、(1)人間関係が面倒・大変、(2)メリットや必要性を感じない、(3)必要な人間関係を他に築けている(離脱者の場合は過去の友人グループのうち一部のメンバーとの交流が残存している場合を含む)、(4)向いていない・対人スキルがない、(5)忙しい・時間がない、(6)転居・単身赴任、(7)自身または家族の健康問題、(8)その他の環境等の条件が揃わない、(9)子供の成長・親元からの独立、(10)自身の年齢が他の親と合わない、(11)その他の記述、(12)特別な理由なし・なんとなく、と分類した。さらにより大まかな分類として、(1)～(3)を「能動的理由」、(4)～(8)を「条件的理由」、(9)～(10)を「年齢的理由」とした。

以上の小分類・大分類ごとの度数分布を表 41、42 に示す(度数分布の差に関する有意性検定は行っていない)。なお、同じ回答者が複数個の理由を挙げている場合には、複数の分類カテゴリーで計上しており、一人一理由とは限らない(ただし「特別な理由なし」と他カテゴリーとの重複ケースは参加者・不参加者ともに存在しない)。また、後続(12章)の重回帰分析の結果と対照可能とするため、サンプルは重回帰分析における世帯収入以外の独立変数に対応する質問項目に全て回答した対象者のみ(リストワイズ)を残している。

度数分布の傾向を確認すると、参加者では「子供きっかけ」「子供無関係」ともに目的的理由を述べる回答者は、男性で6割程度、女性で7～8割となっている。男女とも半数を超えたとともに、女性の方が明確な目的を理由として述べているケースが多い。また契機的理由についても、「子供きっかけ」「子供無関係」ともに男性では15%程度、女性では25%程度となっており、やはり女性の方が割合が高い傾向にある。一方で「特別な理由なし」については男性の「子供きっかけ」で20.8%(女性では4.9%)、「子供無関係」で24.0%(女性では5.7%)となっており、女性と比べて男性では明確な理由がないケースが多い傾向にある。なお、回答者分類では「子供無関係」であるが、自由記述では(13)子供の保育園・幼稚園・学校関係、(14)子供のスポーツ・習い事・塾などの関係、(16)その他の子供きっかけの关系到該当する内容を述べている回答者が少数であるが存在した(男性では延べ5名、女性では延べ14名)。回答者カテゴリーに違背しているが、自由記述回答の中で「子供きっかけ」「子供無関係」のどちらともとれる内容のものが多くも踏まえ、調査の冒頭のスクリーニングでの回答を優先して「子供無関係」のカテゴリーのまま示すこととした。

表 41 参加理由(自由記述回答)の分類結果

	参加・子供きっかけ		参加・子供無関係		
	(N=197)		(N=183)		
目的的理由	(1)情報	50	25.4%	45	24.6%
	(2)話す・相談	11	5.6%	29	15.8%
	(3)孤独感解消	18	9.1%	11	6.0%
	(4)交流・集まり	20	10.2%	15	8.2%
	(5)イベント	6	3.0%	4	2.2%
	(6)子供のため	11	5.6%	8	4.4%
	(7)支援・協力	3	1.5%	1	0.5%
	(8)その他メリット	10	5.1%	7	3.8%
	上記1つ以上回答	115	58.4%	107	58.5%
契機的理由	(9)親の同意	0	0.0%	1	0.5%
	(10)親の仕事	0	0.0%	2	1.1%
	(11)その他親の関係	2	1.0%	9	4.9%
	(12)共通点ある親同士	8	4.1%	4	2.2%
	(13)子の園・学校	9	4.6%	2	1.1%
	(14)子の習い事	3	1.5%	0	0.0%
	(15)近所の親同士	7	3.6%	8	4.4%
	(16)その他子との関係	6	3.0%	3	1.6%
上記1つ以上回答	32	16.2%	27	14.8%	
義務的理由	(17)義務・付き合い	9	4.6%	5	2.7%
	(18)その他の記述	3	1.5%	2	1.1%
	(19)特別な理由なし	41	20.8%	44	24.0%

	参加・子供きっかけ		参加・子供無関係		
	(N=185)		(N=140)		
目的的理由	(1)情報	67	36.2%	45	32.1%
	(2)話す・相談	41	22.2%	49	35.0%
	(3)孤独感解消	36	19.5%	27	19.3%
	(4)交流・集まり	17	9.2%	5	3.6%
	(5)イベント	3	1.6%	3	2.1%
	(6)子供のため	12	6.5%	16	11.4%
	(7)支援・協力	5	2.7%	1	0.7%
	(8)その他メリット	10	5.4%	5	3.6%
	上記1つ以上回答	137	74.1%	112	80.0%
契機的理由	(9)親の同意	0	0.0%	1	0.7%
	(10)親の仕事	0	0.0%	0	0.0%
	(11)その他親の関係	8	4.3%	16	11.4%
	(12)共通点ある親同士	13	7.0%	9	6.4%
	(13)子の園・学校	12	6.5%	1	0.7%
	(14)子の習い事	3	1.6%	3	2.1%
	(15)近所の親同士	3	1.6%	3	2.1%
	(16)その他子との関係	13	7.0%	10	7.1%
上記1つ以上回答	49	26.5%	37	26.4%	
義務的理由	(17)義務・付き合い	2	1.1%	0	0.0%
	(18)その他の記述	4	2.2%	0	0.0%
	(19)特別な理由なし	9	4.9%	8	5.7%

※1人の自由記述内容が複数の理由に該当する場合がある

次に不参加者の傾向を見ると、能動的な理由を答えた回答者が4～6割程度となっている。男女ともに「離脱」(男性 41.8%、女性 50.3%)より「未経験」(男性 57.2%、女性 59.2%)の方が、あえて加わっていない理由を持っている人の割合が高いことが分かった。一方、自らの意志というよりも何らかの条件が満たされないことによって参加していない条件的理由については、「離脱」(男性 24.1%、女性 22.2%)と「未経験」(男性 22.5%、女性 26.1%)の間で大きな差は見られず、ともに25%程度であった。さらに年齢的理由については、やはり一度以上グループを経験している「離脱」(男性 19.1%、女性 37.7%)の方が「未経験」(男性 8.6%、女性 14.6%)よりも高い割合となっている(同時に女性の方が年齢的理由を答えている人の割合が高い)。なお参加者の側では大きな男女差が見られた「特別な理由なし」については、不参加者では男性の「子供きっかけ」で11.3%(女性では3.6%)、「子供無関係」で13.5%(女性では8.3%)となっており、男性の割合の方が若干高いものの、参加者の場合ほどの明確な差とはなっていない。

表 42 不参加理由(自由記述回答)の分類結果

男性(N=363)		過去にいた・離脱		未経験		
		(N=141)		(N=222)		
能動的な理由	(1)人間関係が大変	44	31.2%	92	41.4%	
	(2)メリットなし	15	10.6%	37	16.7%	
	(3)他に必要な関係持つ	2	1.4%	0	0.0%	
	上記1つ以上回答	59	41.8%	127	57.2%	
条件的理由	(4)向いていない	1	0.7%	8	3.6%	
	(5)忙しい・時間がない	17	12.1%	13	5.9%	
	(6)転居・単身赴任	1	0.7%	0	0.0%	
	(7)自身・家族の健康問題	1	0.7%	0	0.0%	
	(8)その他環境条件揃わず	14	9.9%	31	14.0%	
上記1つ以上回答	34	24.1%	50	22.5%		
年齢的理由	(9)子の成長・独立	24	17.0%	18	8.1%	
	(10)他の親と合わず・高齢	3	2.1%	1	0.5%	
	上記1つ以上回答	27	19.1%	19	8.6%	
		(11)その他の記述	8	5.7%	0	0.0%
		(12)特別な理由なし	16	11.3%	30	13.5%
女性(N=324)		過去にいた・離脱		未経験		
		(N=167)		(N=157)		
能動的な理由	(1)人間関係が大変	61	36.5%	78	49.7%	
	(2)メリットなし	19	11.4%	21	13.4%	
	(3)他に必要な関係持つ	10	6.0%	1	0.6%	
	上記1つ以上回答	84	50.3%	93	59.2%	
条件的理由	(4)向いていない	6	3.6%	15	9.6%	
	(5)忙しい・時間がない	9	5.4%	4	2.5%	
	(6)転居・単身赴任	9	5.4%	2	1.3%	
	(7)自身・家族の健康問題	4	2.4%	2	1.3%	
	(8)その他環境条件揃わず	13	7.8%	20	12.7%	
上記1つ以上回答	37	22.2%	41	26.1%		
年齢的理由	(9)子の成長・独立	59	35.3%	20	12.7%	
	(10)他の親と合わず・高齢	5	3.0%	3	1.9%	
		上記1つ以上回答	63	37.7%	23	14.6%
		(11)その他の記述	4	2.4%	1	0.6%
		(12)特別な理由なし	6	3.6%	13	8.3%

※1人の自由記述内容が複数の理由に該当する場合がある

12 今後の参加意向と参加・不参加理由およびその他要因の関係

本章では重回帰分析を行い、回答者自身が意識する参加／不参加理由、および社会的属性、家族形態、居住環境などの各要因がグループ活動に及ぼす影響を検証する。参加者・不参加者をできるだけ同条件で比較するため、ほぼ同文言で問うた設問「今後の参加意向」を従属変数として使用する(両設問の文言・選択肢と回答傾向については8章3節および9章1節を参照)。分析の手順として、サンプルを男女および「子供きっかけ」「子供無関係」「離脱」「未経験」それぞれに分け、モデル1(以下M1)、モデル2(以下M2)を設定し、二段階の重回帰分析を行った。

一段階め(M1)では、11章で自由記述回答を分類した結果を利用し、「特別な理由なし」以外の理由大分類(参加者では「目的的理由」「契機的理由」「義務的理由」「その他記述」、不参加者では「能動的理由」「条件的理由」「年齢的理由」「その他記述」)を独立変数(ダミー変数)として投入した。なお、「特別な理由なし」以外では同一の回答者が複数の理由で計上されているケースがあり、そのような場合では該当するそれぞれの理由の効果が計算される。二段階め(M2)では、統制変数として想定される社会経済的地位(学歴、世帯収入、就業形態)および同居家族、地縁・血縁関係に関する変数を独立変数として追加した。追加する独立変数については10章以前で扱ってきたものと基本的には同一のものであるが、サポート減数については「家事サポート」と「育児サポート」の平均値をとって投入したほか、世帯収入は連続値ではなくカテゴリーで区分したダミー変数として投入している(「わからない・欠損値」も単独のカテゴリーとして残し、投入した)。また、すべての独立変数を用いてリストワイズした結果、サンプルが男性743名、女性649名に減少している。

重回帰分析の結果を、表43、44に示す。最初に留意点を二つ述べる。一つ目は修正済み決定係数についてである。参加者(「子供きっかけ」「子供無関係」)の女性の分析結果では追加の独立変数がほとんど従属変数を説明していないため、M2の修正済み決定係数の減少分が大きく、モデル全体の有意性が消滅または著しく減少している。そのため基本的にはM2の結果を基に参加・不参加理由の結果を解釈していくが、参加者女性についてはM1の結果を基に解釈する(ただし先に述べておくと、参加者女性ではM1とM2の理由の効果がほとんど変わらない結果となった)。

また、もう一つの留意点として、理由分類に該当する人数の少なさについてである。「義務的理由」「その他の記述」については最多でも1桁台の人数しかいない。分析の精緻化を期すべく、「特別な理由なし」の全ての理由を投入しているが、これらのダミー変数の効果については不安定性が残るため、検証の対象ではなくあくまで統制変数として用いている。従って、参加者の「目的的理由」「契機的理由」、不参加者の「能動的理由」「条件的理由」「年齢的理由」の影響のみを解釈の対象とする。

以上の前提で分析結果を見ていくと、参加者では男女ともに、また「子供きっかけ」「子供無関係」の双方で、目的的理由と契機的理由が今後の参加意向に大きな正の有意の効果を及ぼしている。例えば、男性の「子供きっかけ」では目的的理由の標準化偏回帰係数(β)が0.227(1%水準で有意)、契機的理由では0.177(5%水準で有意)である。性別と関係なく、明確な参加理由を持っている場合には今後の参加意向も高い傾向が確認された。男性の分析結果(M2)のうち、理由以外の

独立変数について、5%以下の水準で有意になっている点を見ると、「子供きっかけ」では家事育児分担納得感が、「子供無関係」で親同居が有意な正の効果を持っており、家族に関する条件が参加意向を強める傾向が確認された。

次に不参加者の分析結果を見ると、やはり理由のダミー変数に有意な効果が出ているが、傾向が男女で異なる。男性では「離脱」「未経験」ともに、追加独立変数の統制後の M2 において条件的理由が正の効果を持っている（「離脱」で $\beta=0.315$ 、5%水準で有意。「未経験」で $\beta=0.353$ 、0.1%水準で有意）。一方、女性では「離脱」「未経験」ともに M2 で条件的理由が有意でない代わりに、能動的理由が負の効果を持っている（「離脱」で $\beta=-0.276$ 、5%水準で有意。「未経験」 $\beta=-0.218$ 、3%水準で有意）。男女合わせて見れば、自分で能動的に不参加を決めている場合には今後も参加を望まず、意思と関係なく参加条件が整わない場合には（条件さえ整えば）参加を望むという形で、理由と参加意向との関係について自然な解釈ができる。しかし、なぜ男性でのみ条件的理由、女性でのみ能動的理由の効果が出るかという性差の解釈について、今回の分析からは整合的な解釈が難しい。この点については、より詳細な分析も含め今後の検討課題としたい。また、理由以外の独立変数について、5%以下の水準で有意になっている点を見ると、男性の「未経験」で未就学子同居、女性の「離脱」で家事育児サポート源数、女性の「未経験」で DID 人口比と未就学子同居が有意な正の効果を持っていた。一方、男性の「離脱」で配偶者地元、「未経験」で家事育児分担納得感と本人地元、女性の「離脱」で家事育児分担納得感が有意な負の効果を持っていた。未就学子を持つ未経験者が将来的な参加意向を抱いているほか、家族・親族との関係性や地理的条件によって離脱者・未経験者ともに参加意向が影響を受けている傾向が確認された。

表 43 今後の参加意向の重回帰分析結果(参加者)

		子供きっかけ(N=197)						子供無関係(N=183)					
		M1			M2			M1			M2		
		b	S.E.	β	b	S.E.	β	b	S.E.	β	b	S.E.	β
	定数	-2.005 ***	.094		-1.409 ***	.328		-2.325 ***	.093		-2.422 ***	.338	
参加理由	目的的理由	.402 ***	.109	.272	.335 **	.119	.227	.639 ***	.110	.432	.539 ***	.119	.365
	契機的理由	.399 **	.140	.202	.350 *	.151	.177	.810 ***	.150	.394	.743 ***	.154	.362
	義務的理由	-.773 **	.238	-.222	-.825 **	.258	-.237	-.475	.303	-.106	-.465	.313	-.104
	その他	-.995 *	.390	-.167	-1.197 **	.438	-.201	.825 †	.465	.118	.828 †	.475	.118
学歴	専門/短大/高専				-.062	.186	-.028				-.239	.182	-.121
	(基準: 中/高) 大学/大学院				-.182	.138	-.116				-.062	.144	-.041
世帯収入_{u1}	0-399万				-.224	.209	-.082				.189	.197	.077
	(基準: 800万以上) 400-599万				-.153	.135	-.089				.191	.136	.113
	600-799万				.017	.143	.009				-.044	.138	-.024
	収入不明				-.125	.179	-.051				.064	.199	.023
就業形態	自営・自由				.200	.221	.066				-.073	.192	-.028
	(基準: フルタイム) パート・バイト				.478	.508	.066				-.457	.659	-.046
	主夫・無職				.449	.322	.097				.208	.371	.042
	その他職業				-.339	.324	-.073				-.172	.687	-.017
	通算就業年数				-.012	.010	-.092				.010	.009	.087
	平日家事育児時間				.003	.034	.007				.015	.032	.033
	家事育児分担納得感				.185 *	.080	.166				.137 †	.079	.124
	親同居				-.164	.144	-.088				.306 *	.139	.153
地元	本人地元				.067	.118	.046				.228 †	.117	.155
	配偶者地元				-.119	.144	-.071				.069	.153	.040
	本人地元×配偶者地元				.054	.268	.017				.069	.244	.027
	DID人口比				.002	.002	.067				.000	.002	-.007
サポート源数	経済的				.039	.077	.045				.079	.073	.090
	精神的				.049	.075	.063				.058	.061	.086
	家事育児				-.102	.118	-.090				-.002	.084	-.003
同居子学齢	未就学子				-.118	.131	-.071				.060	.137	.036
	小学生				.084	.111	.055				-.068	.120	-.041
	中学生				.044	.126	.025				.211	.160	.103
	高校生・高専生				.129	.131	.076				-.163	.146	-.084
	修正済みR²	.192 ***			.181 ***			.222 ***			.248 ***		

***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10

※1: 「収入不明」は欠損値と「わかぬ※1」は欠損値と「わからない」を合算してダミー変数を作成

		子供きっかけ(N=185)						子供無関係(N=140)					
		M1			M2			M1			M2		
		b	S.E.	β	b	S.E.	β	b	S.E.	β	b	S.E.	β
	定数	-2.046 ***	.158		-2.177 ***	.432		-2.190 ***	.166		-1.665 ***	.406	
参加理由	目的的理由	.430 **	.156	.266	.486 **	.179	.301	.458 **	.166	.264	.483 **	.182	.279
	契機的理由	.413 **	.153	.257	.428 *	.173	.267	.466 **	.150	.296	.430 *	.163	.273
	義務的理由	.046	.512	.007	-.088	.588	-.013						
	その他	-.669 †	.356	-.137	-.563	.397	-.115						
学歴	専門/短大/高専				-.178	.158	-.125				-.068	.162	-.048
	(基準: 中/高) 大学/大学院				-.023	.169	-.016				.229	.172	.156
世帯収入_{u1}	0-399万				-.119	.255	-.046				-.011	.216	-.006
	(基準: 800万以上) 400-599万				.005	.189	.003				-.151	.194	-.097
	600-799万				-.075	.194	-.040				-.125	.201	-.068
	収入不明				-.044	.170	-.029				-.244	.201	-.143
就業形態	フルタイム				.164	.189	.079				-.126	.179	-.072
	(基準: 主婦・無職) 自営・自由				-.030	.358	-.007				-.208	.435	-.043
	パート・バイト				.107	.149	.066				-.001	.147	-.001
	その他職業				.651	.449	.116						
	通算就業年数				.004	.010	.040				-.018	.011	-.166
	平日家事育児時間				.008	.020	.037				.018	.016	.106
	家事育児分担納得感				.017	.070	.021				-.036	.085	-.039
	親同居				-.067	.225	-.025				.002	.187	.001
地元	本人地元				.072	.139	.050				.054	.144	.039
	配偶者地元				.106	.152	.070				-.264	.182	-.172
	本人地元×配偶者地元				-.164	.276	-.061				.050	.280	.022
	DID人口比				.001	.002	.022				-.004 †	.002	-.185
サポート源数	経済的				.007	.094	.007				-.215 *	.097	-.236
	精神的				.055	.077	.064				.020	.072	.031
	家事育児				-.031	.132	-.023				.065	.131	.067
同居子学齢	未就学子				-.115	.148	-.072				-.036	.180	-.025
	小学生				.082	.149	.047				.354 *	.172	.189
	中学生				-.017	.166	-.008				-.194	.335	-.052
	高校生・高専生				-.121	.173	-.058				-.248	.278	-.078
	修正済みR²	.061 **			-.034			.064 **			.085 †		

***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10

※1: 「収入不明」は欠損値と「わからない」を合算してダミー変数を作成

表 44 今後の参加意向の重回帰分析結果(不参加者)

	不参加・男性(N=363)						離脱(N=141)						未経験(N=222)					
	M1			M2			M1			M2			M1			M2		
	b	S.E.	β	b	S.E.	β	b	S.E.	β	b	S.E.	β	b	S.E.	β	b	S.E.	β
	定数	-2.972 ***	.175	-2.790 ***	.514		-3.525 ***	.107		-3.789 ***	.311							
不参加理由	能動的理由	-.224	.196	-.134	-.162	.206	-.097			-.189	.119	-.133	-.094	.118	-.066			
	条件的理由	.448 *	.214	.232	.608 *	.235	.315			.554 ***	.132	.330	.592 ***	.129	.353			
	年齢的理由	.046	.218	.022	.293	.231	.139			-.428 *	.175	-.171	-.246	.175	-.098			
	その他	.472	.330	.132	.486	.338	.136											
学歴	専門/短大/高専				-.213	.263	-.088						-.160	.147	-.073			
	(基準: 中/高) 大学/大学院				-.184	.207	-.100						-.074	.096	-.052			
世帯収入 _{W1}	0-399万				-.108	.276	-.042						-.096	.134	-.058			
	(基準: 800万以上) 400-599万				-.355	.219	-.159						-.102	.128	-.063			
	600-799万				-.218	.200	-.104						.101	.132	.056			
	収入不明				.228	.217	.098						.054	.147	.025			
就業形態	自営・自由				-.144	.273	-.045						-.236 †	.139	-.104			
	(基準: フルタイム) パート・バイト				-.449	.810	-.046						.203	.361	.034			
	主夫(婦)・無職				-.031	.292	-.011						-.101	.145	-.047			
	その他職業				.287	.374	.064						.352	.279	.074			
	通算就業年数				-.026 †	.015	-.169						.005	.010	.032			
	平日家事育児時間				.022	.040	.045						-.002	.021	-.006			
	家事育児分担納得感				-.011	.115	-.008						-.190 **	.065	-.177			
地元	親同居				-.042	.207	-.018						-.155	.162	-.062			
	本人地元				-.213	.156	-.127						-.205 *	.103	-.146			
	配偶者地元				-.532 *	.223	-.278						-.173	.121	-.110			
	本人地元×配偶者地元				.665 †	.344	.233						.064	.206	.024			
	DID人口比				.005	.003	.129						-.002	.002	-.064			
サポート源数	経済的				.067	.128	.049						-.018	.075	-.017			
	精神的				.105	.121	.084						.157	.099	.106			
	家事育児				.270	.169	.160						.063	.100	.045			
同居子学齢	未就学児				-.135	.314	-.042						.373 **	.129	.219			
	小学生				.416 †	.244	.160						.040	.104	.023			
	中学生				-.034	.255	-.012						.084	.142	.037			
	高校生・高専生				-.005	.185	-.002						.075	.135	.036			
	修正済みR ²	.089 **		.174 **			.188 ***		.311 ***									

***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10 ※1: 「収入不明」は欠損値と「わからない」を合算してダミー変数を作成

	不参加・女性(N=324)						離脱(N=167)						未経験(N=157)					
	M1			M2			M1			M2			M1			M2		
	b	S.E.	β	b	S.E.	β	b	S.E.	β	b	S.E.	β	b	S.E.	β	b	S.E.	β
	定数	-2.695 ***	.194	-3.255 ***	.453		-3.332 ***	.160		-3.975 ***	.413							
不参加理由	能動的理由	-.545 **	.183	-.299	-.503 *	.199	-.276			-.353 *	.166	-.212	-.362 *	.173	-.218			
	条件的理由	.313	.193	.142	.154	.204	.070			.383 *	.174	.206	.272	.180	.146			
	年齢的理由	-.324 †	.193	-.173	-.274	.203	-.146			-.092	.202	-.040	.006	.215	.003			
	その他	-.805 †	.475	-.135	-.859 †	.508	-.144			-.668	.792	-.065	-.468	.810	-.046			
学歴	専門/短大/高専				-.110	.171	-.059						.022	.157	.013			
	(基準: 中/高) 大学/大学院				.182	.201	.088						.075	.180	.040			
世帯収入 _{W1}	0-399万				.267	.241	.117						-.021	.238	-.011			
	(基準: 800万以上) 400-599万				.368 †	.216	.179						.011	.230	.006			
	600-799万				-.199	.253	-.079						-.208	.263	-.081			
	収入不明				-.150	.230	.067						-.171	.226	-.089			
就業形態	フルタイム				-.073	.328	-.019						.371 †	.220	.145			
	(基準: 主婦・無職) 自営・自由				.526	.472	.088						.125	.367	.027			
	パート・バイト				-.158	.177	-.077						.116	.173	.056			
	その他職業				.036	.946	.003						-.318	.831	-.031			
	通算就業年数				-.004	.012	-.028						.000	.011	.001			
	平日家事育児時間				-.039	.033	-.101						.038 †	.021	.148			
	家事育児分担納得感				-.201 *	.083	-.195						.016	.076	.018			
地元	親同居				-.294	.244	-.095						.048	.251	.016			
	本人地元				-.003	.168	-.002						.111	.154	.066			
	配偶者地元				-.112	.201	-.057						-.238	.169	-.133			
	本人地元×配偶者地元				.167	.324	.054						-.047	.316	-.015			
	DID人口比				.003	.003	.069						.005 *	.002	.187			
サポート源数	経済的				-.101	.137	-.063						.160	.164	.099			
	精神的				-.031	.125	-.022						-.068	.131	-.051			
	家事育児				.741 **	.234	.301						.115	.224	.056			
同居子学齢	未就学児				.306	.346	.080						.463 **	.169	.256			
	小学生				-.395	.297	-.116						-.368 †	.207	-.143			
	中学生				.096	.355	.021						-.367	.270	-.110			
	高校生・高専生				-.075	.328	-.018						.306	.281	.091			
	修正済みR ²	.099 ***		.153 **			.107 ***		.183 **									

***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05, †: p<.10 ※1: 「収入不明」は欠損値と「わからない」を合算してダミー変数を作成

13 参考文献

- 藤井恭子. 2016.「成人期女性の友人関係におけるヤマアラシ・ジレンマの特徴」『教育学論究』8: 165-71.
- 久保桂子. 2001.「働く母親の個人ネットワークからの子育て支援」『日本家政学会誌』52(2): 135-145.
- 前田尚子. 2004.「パーソナル・ネットワークの構造がサポートとストレインに及ぼす効果—育児期女性の場合—」『家族社会学研究』16(1): 21-31.
- 総務省統計局. 2017. 平成 27 年国勢調査.
<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2015/kekka.html> (2017/10/13 閲覧) .